

沼津高専だより

第118号

令和3年3月1日発行

独立行政法人国立高等専門学校機構

沼津工業高等専門学校

〒410-8501 沼津市大岡3600

TEL 055-921-2700 URL <http://www.numazu-ct.ac.jp/>



第33回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト2020にてロボコン大賞を受賞



ロボコン大賞垂れ幕を設置



第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト自由部門で敢闘賞を受賞



第55回高専祭『Echo』

目次

☆沼津工業高等専門学校**の目的、教育目標、養成すべき人材像、学生受入方針**

☆令和2年度総評

沼津高専プライドとあおいくま 学校長 中村 聡 4

30年先の持続可能な社会を支える皆さんへ 副校長 (総務主事) 小林 隆志 4

しなやかさとたくましさを 校長補佐 (教務主事) 稲津 晃司 5

コロナ禍の中での学生のがんばり 校長補佐 (学生主事) 小林 美学 5

新しい生活様式を求められた一年 校長補佐 (寮務主事) 遠山 和之 6

令和2年度を振り返って 校長補佐 (専攻科長) 芳野 恭士 6

時間がないんだ、青春は 学生生活支援室長 小林美恵子 7

沼津高専の国際化に向けて 国際交流センター長 大川 政志 8

できたこと・できなかったこと 機械工学科長 新富 雅仁 8

未来の社会システムを担う人になりたいなら電気電子工学科を覗いてみると良い 電気電子工学科長 大津 孝佳 8

来年度へ向けて 電子制御工学科長 牛丸 真司 9

新しい世の中と教育の役割 制御情報工学科長 長縄 一智 9

令和2年度を振り返って 物質工学科長 竹口 昌之 10

1年間の遠隔授業を終えて 教養科長 佐藤 崇徳 11

☆行事・コンテスト・その他イベント

体育祭：オンラインでのクラブ紹介 体育祭実行委員長 電子制御工学科4年 齋藤 達志 12

体育祭：今までとは違う1年と体育祭 体育祭実行委員長 機械工学科4年 森 湧真 12

高専祭：高専祭をおえて 高専祭実行委員長 物質工学科4年 飯塚 柊斗 13

知財の寺子屋活動報告：駿河湾を知財創造教育のキャンパスに 知財のTKY顧問 大津 孝佳 13

第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト：11年ぶりの挑戦に向けて プロコン同好会顧問 鈴木 康人 14

9年ぶりの決勝進出～プロコン同好会の挑戦～ プロコン同好会 制御情報工学科3年 相澤 大和 14

ロボットコンテスト2020：ロボコン大賞への軌跡～顧問の視点から～ ロボコン部顧問 電子制御工学科 青木 悠祐 15

努力が実った時 ロボコン部部长 電子制御工学科4年 榊原 あおい 15

☆新入生から

こんな時だからこそ 機械工学科1年 古川 碧 16

非日常に感じる事 電気電子工学科1年 井村 蒼馬 16

私の憧れは仲間たち 電子制御工学科1年 和田 莉央 17

☆留学生から

人生の新たなチャプター 電子制御工学科3年 タン フィスエン 17

こんにちは 制御情報工学科3年 ウィラ ワリヤディン 18

入学が11月の留学生 物質工学科3年 ティオ ケンジ 18

☆学生会活動について

..... 制御情報工学科4年 川嶋 玲志 19

☆寮生会活動について

..... 機械工学科4年 古田 皓晟 19

☆退職教職員から

沼津高専と私 機械工学科 西田 友久 20

Who I am! 制御情報工学科 長谷 賢治 20

自己実現と有言実行 制御情報工学科 長縄 一智 21

35年間ありがとうございました 教養科 遠藤 良樹 21

☆卒業生・修了生から

高専生活を振り返って/編入試験について 機械工学科5年 今井 翔太 22

晴天を祈って 物質工学科5年 阿形 明音 22

高専生活を振り返って 環境エネルギー工学コース2年 稲葉 蒼一郎 23

☆学生の研究活動 (2020. 4. 1～2021. 3. 31) 23

☆令和2年度卒業生・修了生進路先一覧 26

☆教育後援会から

ある研究者の言葉を、学生の皆さんへ 教育後援会会長 土屋 善隆 29

☆同窓会から

同窓会へようこそ 同窓会会長 木戸 実 29

☆お知らせ

海外留学プログラムについて 30

令和3年度授業料免除及び徴収猶予等について 30

各種奨学金について 31

意見箱について 32

令和3年度行事予定表 33

編集後記 33

沼津工業高等専門学校 の 目的、教育目標、 養成すべき人材像、学生受入方針

教育理念

人柄のよい優秀な技術者となって世の期待にこたえよ

目 的

本高専は、豊かな人間性を備え、社会の要請に応じて工学技術の専門性を創造的に活用できる技術者の育成を行い、もって地域の文化と産業の進展に寄与することを目的とする。

養成すべき人材像

社会から信頼される、指導力のある実践的技術者

学生受入方針

以下の意欲、および学力を有する者を受け入れる

- 科学技術に興味を持ち、入学後の学習に対応できる基礎学力を有する者
- 科学技術を用いて社会に貢献する意欲の有る者
- 科学技術の役割、技術者の責任を考えられる者
- 他人の意見を聞き、自らの意見を言える者

本 科

教育方針

1. 低学年全寮制を主軸とするカレッジライフを通じて、全人教育を行う。
2. コミュニケーション能力に優れた国際感覚豊かな技術者の養成を行う。
3. 実験・実習及び情報技術を重視し、社会の要請に応え得る実践的技術者の養成を行う。
4. 教員の活発な研究活動を背景に、創造的な技術者の養成を行う。

学習・教育目標

本高専は、学生が以下の能力、態度、姿勢を身につけることを目標とする。

1. 技術者の社会的役割と責任を自覚する態度
2. 自然科学の成果を社会の要請に応じて応用する能力
3. 工学技術の専門的知識を創造的に活用する能力
4. 豊かな国際感覚とコミュニケーション能力
5. 実践的技術者として計画的に自己研鑽を継続する姿勢

専 攻 科

教育方針

創造的な知性と視野の広い豊かな人間性を備えた技術者を育成するため、融合複合・新領域分野をテーマとする専攻科実験の実施、長期インターンシップによるエンジニアリングデザインの実務体験、専攻科研究のマンツーマン指導などを

教育方針としており、これらの教育方針の下に以下の学習・教育目標を達成する。

学習・教育目標

- A 社会的責任の自覚と地球・地域環境についての深い洞察力と多面的考察力
- (A-1) 「異なる文化、価値観」や「自然との調和の必要性」を理解し、工学技術上の課題に対して地球・地域環境との調和を考慮し行動することができる。
- (A-2) 「工学倫理」および「社会問題に対して技術者の立場から適切に対応する方法」を理解し行動することができる。
- B 数学、自然科学及び情報技術を応用し、活用する能力を備え、社会の要求に応える姿勢
- (B-1) 数学、自然科学及び情報技術の知識を、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の複合・融合領域に派生する社会的ニーズに応えるために活用することができる。
- C 工学的な解析・分析力及びこれらを創造的に統合する能力
- (C-1) 機械工学、電気電子工学、情報工学、応用化学、生物工学、材料工学などの専門的技術を身につけ、これらの技術を複合的に活用して、環境エネルギー工学、新機能材料工学、医療福祉機器開発工学等の分野に創造的に応用することができる。
- (C-2) 工学的に解析・分析した情報やデータをパソコン等により整理し、報告書にまとめることができる。
- (C-3) 社会のニーズに応えるシステムを構築するために、エンジニアリングデザインを提案できる。
- D コミュニケーション能力を備え、国際的に発信し、活躍できる能力
- (D-1) 日本語で、自己の学習・研究活動の経過を報告し、質問に答え、議論することができる。
- (D-2) 自己の研究成果の概要を英語で記述し、発表することができる。
- E 産業の現場における実務に通じ、与えられた制約の下で実務を遂行する能力並びに自主的及び継続的に自己能力の研鑽を進めることができる能力と姿勢
- (E-1) 工学技術に関する具体的な課題にチームで取り組み、その中で担当する実務を適切に遂行することができる。
- (E-2) 日常の業務や研究に関連した学会等が発行する刊行物を、定期的・継続的に目を通して実務に応用することができる。

令和2年度総評



沼津高専プライドと あおいくま

学校長
中村 聡

早いもので、私が沼津高専に赴任して1年が過ぎようとしております。令和2年度を振り返りますと、新型コロナウイルスに翻弄された1年でありました。新型コロナウイルス感染症予防対策の実施にあたっては、「学生・教職員全員の生命を守るために最大限努める」という基本方針を掲げました。私自身がこれまで微生物や免疫の研究に携わって参りましたことから、専門家としての立場から学校方針の策定にあたらせていただきました。学生の皆さまのご協力と保護者の皆さまのご理解・ご支援に深く感謝いたします。

新型コロナウイルス感染症が拡大していく中、「入学式の取りやめ」、「始業式の延期」から始まり、「授業のオンライン実施」、さらには「分割入寮と分割登校による授業の対面・オンライン並行実施」と、矢継ぎ早に判断を下さなければなりません。この間の教職員の対応は見事であったと思いますし、それに適応し勉学の意欲を保ち続けた学生の頑張りや底力にも大きな感銘を受けました。まさに高等教育機関の面目躍如、学生・教職員に脈々と続く「沼津高専プライド」を肌で感じることができました。

学生生活に目を向けますと、部屋に籠もってのオンラ

イン授業の受講、研究活動や部活動の制限など、極めて厳しい状況が続きました。それでも、オンラインで開催された国際会議・国内学会では学生が弛まず研究発表を行い、何人も学生が優秀賞などを受賞しました。また、高専ロボコン全国大会で栄えある『ロボコン大賞』を受賞し、実に32年ぶりに全国高専の頂点に立ったことはたいへん誇らしいことです。ほかにも、プロコン全国大会敢闘賞、沼津市青少年善行表彰、千本賞、パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト特許庁長官賞の受賞など、今年度の学生の活躍にはめざましいものがありました。決して私が何か貢献したわけではありませんが、この場に立ち会うことができた幸せを噛み締めています。

皆さま、「あおいくま」という言葉をご存じでしょうか。「あせるな、おこるな、いばるな、くさるな、まけるな」の5つの言葉の頭の文字をとったものです。ものまねタレントのコロッケさんが人生の基本として胸に刻んでいる言葉で、彼の著書『母さんの「あおいくま」』（新潮文庫）の中で紹介されています。私がこの言葉と出会ったのは最近のことですが、本校の教育理念にある『人柄のよい』に繋がる素晴らしい言葉と思います。特にこれから社会に羽ばたいていく卒業生はぜひ覚えておいてください。

新型コロナウイルス感染症拡大はまだまだ予断を許さない状況が続いている中、私たちの生活は少しずつですがニューノーマルの時代へとシフトしつつあります。私も進化していくことが要求されるニューノーマル時代を「あおいくま」の精神で乗り切りたいと思います。



30年先の持続可能な社会を支える皆さんへ

副校長（総務主事）
小林 隆志

卒業生、修了生の皆さん、卒業・修了おめでとうございます。皆さんは新型コロナウイルス感染症の感染拡大の下、登校もままならない不自由な学修を強いられましたが、困難にも負けず、見事に卒業・修了を迎えました。保護者の皆さまにも心よりお祝い申し上げます。

今年度は、近隣市町で感染症陽性者発生との報道を受け、急遽入学式を中止とし、始業を延期とするという年度始めでした。沼津高専での勉学に胸を膨らませて入学してきた1年生の皆さんには大変ご心配をおかけしました。学校としては、学生及び教職員の生命と健康を守るということを基本方針として、5月からの遠隔方式での

授業開始、その後の分割入寮・分割登校と、慎重な対応を取ってきました。皆さんの理解と協力により、ここまで大きな問題なく学校運営ができました。この間、物心両面でご支援をいただいた、教育後援会、同窓会の皆さまにも心よりお礼申し上げます。

今年度実施された遠隔授業は多くの教職員にとっても初めての経験で、学生の皆さんとともに勉強しながら、日々対応してまいりました。今後の教育のデジタル化を考えると、遠隔授業が重要な教育手段となることは間違いありません。一方で、実験・実習は高専教育の根幹であり、技術者になるための基礎として対面授業が必須と考えています。感染症とはしばらく共存しなくてはならない状況です。対面での実験・実習を確保しながら、遠隔授業をツールとして使った進化した技術者教育を行うのが今後の方向性と考えています。

日本は2020年10月に「2050年カーボンニュートラル」の実現を宣言しました。企業や家庭から出る二酸化炭素などの温暖化ガスを減らし、森林による吸収分と相殺し

て実質的な排出量をゼロにするものです。2050年の目標達成のために、再生エネルギー利用、水素利用、電動車導入など、多くの対策が検討されています。これまでエネルギーの多くを化石燃料に依存してきた社会から脱炭素社会に移行するには大変な困難があると考えられますが、持続可能な社会の実現のためには、乗り越えなくてはなりません。卒業生・修了生、そして本校で学ぶ学生

の皆さんが将来の技術革新の主役です。沼津高専での学習・経験と自身のアイデアを基にして、変化に柔軟に対応しながら新しい時代を切り拓いてくれることを願っています。夢をもって挑戦し続けてください。

保護者の皆さまには引き続き学校へのご理解とご支援をお願いいたします。



しなやかさと たくましさを

校長補佐（教務主事）
稲津 晃 司

当初のわたしたちの予想を超える新型コロナウイルス感染症（COVID-19）拡大の影響により、好むと好まざるとに関わらず、学生のみなさんも教職員も文字通りいろいろな「はじめてのこと」を苦勞してやりながら令和2年度を過ごしてきました。その中で学生のみなさんが課外活動で快挙を成し遂げたことは、本当に誇らしい限りです。一方で、いわゆる教務、学生のみなさんの学修、の点からは、この「はじめてのこと」が良かったといえるかどうかは、今年度末、あるいは来年度になってみないと分からず、とても歯がゆい思いです。ひとりでも多くの学生が、今年度の学修の成果で成長して、次の学修や活躍の場に臨んでくれることを願うばかりです。

今年度の経験は、十分な準備ができない中で新しい方法で目標に向かって取り組むことについての経験とも言えます。スマホやPCを使ってきた人でも使い慣れないアプリやシステムを使わざるを得ず、画面の向こうの人と、あるいは一人きりで、毎日、長時間にわたって学修する

ことは、大変だと感じる事が少なくないのではないかと思います。気軽に外出して気分転換することや友人、教員と談笑、卒業研究などの研究、実験、実習が存分にはできずにすっきりしないこともあるでしょう。この他にも困ったことや納得のいかないことがあるでしょう。このような学修にかかる苦勞や問題は、今回、少なくとも本校については、誰かだけのものではなく、みんなのものでした。このために本意でない学修内容の修得となっている人がいる一方で、課外活動で活躍した学生のみなさんがいたように、学修面で成果をあげた人もいます。成果の大きさは人によってまちまちでしょうけれども、成果をあげたのは、不満を不平とせず柔軟に、建設的に捉えて、変化を恐れずに自分が成すべきことに取り組めた、「しなやかさ」をもつ人なのだろうと思います。また、新しい取り組みや試みは、はじめからうまくいくとは限りません。思いも寄らない失敗もあるでしょう。そんなときにでもへこたれない、「たくましさ」もまた、これから強く求められることを教えてくれたのが今年度だと言えます。

社会情勢によらず、時は流れ、やるべきこと、やるべき時がやってきます。今年度の経験は、ただ大変だった、苦しかったものでなく、学生のみなさんの成長につながるものであって欲しいと願っています。



コロナ禍の中での 学生のがんばり

校長補佐（学生主事）
小林 美学

今年度はコロナ禍で始まり、コロナ禍で終わろうとしています。学校に行けばクラスのみなさんに会える、そんな当たり前のことが当たり前ではなくなってしまった一年間でしたが、困難な状況にもご理解を示し、応援してくださいました保護者のみなさまに深く感謝申し上げます。この原稿がみなさまに届く頃には、今よりも感染状況が落ち着いていることを願っています。

今年度は課外活動の再開ができない中、夏の高専大会もインターハイ予選も中止となりました。後期になって課外活動を部分的に再開できるようになりましたが、平

日に十分な活動時間をとることができない状態が続いています。それでもそれぞれの思いを抱え、工夫しながら活動を続けている学生達には頭が下がります。

このような中、ロボコン全国大会において沼津高専「チャリモ」チームが見事、最も栄誉のあるロボコン大賞を受賞しました。本校にとっては第一回大会の優勝以来の快挙です。他にもプロコン本選では沼津高専チームが敢闘賞を受賞しました。パテントコンテスト・デザインパテントコンテスト特許庁長官賞の受賞も本校学生に決まりました。いずれも困難な状況の中、学校全体に勇気と希望を与えてくれる出来事でした。

高専祭も分割登校の中、2回に分けての実施になりました。スタッフ学生もA日程とB日程に二分され、準備に時間をかけられない中でも、それぞれの学生が最大限の力を発揮してくれたおかげで、久しぶりに学内が学生達の賑やかな声にあふれました。様々な制約の中でもそれにくじけず工夫を重ねてやり通せたという点で、例年

以上の立派な高専祭であったと思います。

学生会においても学生総会や学生会長選挙をオンラインで開催するなど、これまでにない試みで活動を続けてきました。文集「礎」も、年度末に無事発行できそうです。

就職関係においても例年より若干苦戦していますが、コロナ禍の中で学生達はよく頑張ってきたと思います。

このように今年度一年間、学生達のがんばりに支えられてきました。学生達にとって大変な一年でありました



新しい生活様式を 求められた一年

校長補佐（寮務主事）
遠山 和之

今年度は、新型コロナウイルスの影響で、開寮時期が遅れただけでなく、分割開寮をはじめとして新型コロナウイルス感染症対策が求められる一年になりました。特に大きく様変わりしたのは、Formsによる点呼と体温・体調・行動記録です。点呼回数も、接触感染と飛沫感染対策から夜10時点呼を3年生以上の外出した寮生のみを対象とし、基本的に朝7時点呼と夜8時点呼の2回に減らしました。体温・体調・行動記録も最初のA日程では試行錯誤が続きました。現在は、点呼と分けて毎日夜8時～9時の時間帯に収集しています。いつ寮生が発熱するかわからない状況下でFormsを通して毎日収集するこの情報は、発熱者の過去2週間の該当寮生の行動や体温・体調を把握して判断できるため、とても役立っています。食堂や風呂での3密を避けるため、食堂業者の協力を頂き、食堂の利用時間帯や風呂の入浴時間の大幅な変更を図りました。最初は500名を超す寮生でどうやれば安全に開寮できるのか、6月に分割開寮で全室個室と決まった後も、食堂や風呂での感染リスクをどう予防するのか、発熱者が出た場合の対応をどうすればよいのかなど、頭を悩ませる日々が続きました。本来、寮生活は、寮生同士がコミュニケーションを図り、技術者として必要なコ

が、今年度のこの経験がこれからの自分に活かせるようなストーリーを、学生達はきっと歩んでくれることと思います。

最後になりましたが全国高専ではいじめ対策を本格化することになり、本校でも9月にいじめ対策委員会が設置され、10月にいじめ防止等基本計画が策定されました。基本計画については本校Webページでも公開しています。ご覧いただければ幸いです。

コミュニケーション能力を身につける場となるべきです。その寮生同士の交流が認められず、自室に他の人を招き入れない指導もしなければなりません。レポートの提出に追われる学生も多く、このような状況は寮生にはデメリットにしか映らなかったのではないかと感じます。

この制約の多い寮生活でも、古田寮長をはじめとする寮生会は、たくましく活動しております。コロナ禍で開催した寮生総会は形式的なものではなく、様々な寮則変更を提案し、承認を得るなど実質的にこれまでと変わりのものでした。寮長選挙も寮長と副寮長がセットで立候補する形に変え、初めての女子寮長が誕生しました。地域との活動も怠らず、1年間に7回実施している「沼津高専避難所運営会議」に参加し、災害の際の対応等について地域の人と協議を重ねると共に、防災訓練の準備・運営にも大きな貢献をしました。この活動は地域から高く評価され、本年度、「沼津市青少年善行表彰」やライオンズクラブが主催する「千本賞」の表彰を受けました。

平成30年度から3年間寮監として寮生の指導にご尽力いただいた合田先生がこの3月で定年を迎えます。毎日、寮生の親代わりとなり、時には厳しく、時には温かく寮生を励まして頂き、本当にありがとうございました。

来年度4月からは感染症対策のため、本年度より約100名少ない400名の寮生でスタートする予定です。7月には国際寮が完成します。本年度のさまざまな経験を活かし、次年度の寮運営を進める所存です。保護者の皆様には引き続きご理解とご支援をお願いいたします。



令和2年度を振り返って

校長補佐（専攻科長）
芳野 恭士

日頃より本校専攻科の教育活動にご理解とご協力をいただき、感謝申し上げます。本校専攻科は平成8年度に設置されて以来、本年度で25年目を迎えました。令和3年1月現在での在籍学生数は、1年生29名、2年生25名の計54名であり、4月には新たに28名の入学者を迎える

予定です。

今年度は、コロナウイルス流行の中で始まり、2年生はこれまでにないリモート環境での就職活動に臨みました。学生たちの頑張りもあり、幸いにも就職を希望した15名は、7月までには全員が企業からの内定をいただくことができました。また、大学院への進学を希望した10名も、入試の日程が例年と異なることがありましたが、それぞれ希望の進学先から合格をいただくことができました。

授業の開始時期も例年より遅れ、前期については夏季休業を短縮することで対応しました。前期は、講義及び学生実験の多くがリモートの環境で行わざるを得ません

でしたが、特に1年生の実験に関しては科目担当教員の工夫により、衛星通信データの解析や医用機器系企業の方々とのディスカッションなど、リモートを駆使しての専攻科ならではの感じる実験が展開されました。後期になってからは、2年生の講義や研究はリモートの環境を残しながらも例年と同様の対面での実施が可能となりました。後期実施の1年生の長期インターンシップはその受講が心配されましたが、結果としては23名が本校の地域創生テクノセンターの未来創造ラボラトリーに入居している企業や県内の企業で、また4名が大学院あるいは研究機関で、10月から1月にかけてインターンシップに取り組んで貴重な技術者や研究者としての実務を体験しています。今回の長期インターンシップは、受け入れ企業や大学等に工夫していただき、リモートと対面を組み合わせる安全に配慮した方法で実施していただいています。学生の研究活動については、前期に十分な対面指

導が受けられなかったことや、研究成果を発表する学会の中止が多かったことから、例年のように進まなかった面があったかもしれません。それでも、学生たちの努力により「電気学会全国大会優秀論文発表賞」や「国際会議WPMC2020 Best Student Paper Award」を受賞した者もいました。

本校専攻科は、本科4、5年の教育課程と合わせて日本技術者教育認定機構（JABEE）の認定を受けており、本校の専攻科を修了した者は修習技術者と呼ばれます。修習技術者は、国家資格である技術士に指導を受ける契約を結ぶことで技術士補となります。来年度は、JABEEの継続審査が予定されています。今後も専攻科修了生が社会から高い評価を得られるよう教育内容の充実を目指して参りますので、沼津高専専攻科をよろしくお願いたします。



時間がないんだ、青春は

学生生活支援室長

小林 美恵子

昨年は大変な一年でした。・・・と過去形で語りたかったのですが、新しい年を迎えて早々、感染拡大は一層勢いを増し、緊急事態が宣言されるに至っております。

出口の見えてこないこの度のコロナ禍の中で、〈青春〉の一瞬一瞬を見送る学生たちの痛ましさには、言葉を失います。かつて「時間がないんだ、青春は」という文庫本の宣伝コピーがありました。まさにセイシュンは無限ではありません。もっと幼ければ、これからだよ、と言えるでしょうし、もっと大人であれば、もういいじゃないか、と言うこともできます。が、15歳から20代前半が多くを占める高専生には、今この時があまりに大切です。15歳と16歳では別人のように変化することがあり、50歳が51歳になるのとは比較になりません。これは輝かしくも切ない事実です。レモンライムの風が吹くような年齢の時には、今しか味わえないことを味わってほしいものです。初恋、友情、部活、歌、笑い、汗、孤独、涙…。

どうしたらよいのでしょうか。考えても、答えが出るものではありません。が、多少変形していても、別バージョンでも、セイシュンはセイシュンです。当たり前に入らなかったからこそ、輝くものもあるはずです。

かつては戦争で、15歳から19歳を真っ黒に塗りつぶされた世代もありました。その一人、茨木のり子の詩に「わたしが一番きれいだったとき／わたしはとてもふしあわせ／わたしはとてもとんちんかん／わたしはめっぼうさ

びしかった…」という一節があります。めったに起こらない（と思いたい）禍に〈一番いい時〉が当たってしまった高専生たちにも共感できる言葉ではないでしょうか。詩の末尾では、強いられる苦しみを生きるエネルギーに変えて見せる、という強い意志が示されます。学生たちにも、逆境から何かを掴む強さを身につけて欲しいと願ってやみません。

今年度も学生生活支援室には、学生からのSOSが次々と寄せられました。専門職にもお力をお借りし、対応に全力を挙げておりますが、今も試行錯誤の日々が続いております。いつもお願いですが、ご家庭と学校との協力関係で、この難局を乗り切りたいと存じます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。





沼津高専の国際化に向けて

国際交流センター長
大川 政 志

国際交流センターは、海外交流委員会と留学生支援委員会からなり沼津高専の国際化を推進してきました。しかし、本年度はコロナ禍の影響で、新たに3名の留学生を3年生として迎えるのみで短期留学生の受け入れや本校学生の海外への派遣を行うことができませんでした。新型コロナウイルスの感染が落ち着いた後に、学生たち

が異文化に触れるような様々な体験を通じてdiversity（多様性）を育んでもらえるように、今後も活動していきたいと思っています。



できたこと・できなかったこと

機械工学科長
新 富 雅 仁

日頃より、機械工学科の教育・運営にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

まずは、卒業を迎える学生のみなさま、ご卒業おめでとうございます。今後のご活躍を心からお祈り申し上げます。

さて、昨年4月に学科長を拝命してから1年が過ぎようとしています。新型コロナウイルス感染症対応につきましては、学生や保護者のみなさまのご期待に沿っていないこともあり、この点についてまずはお詫び申し上げます。機械工学科では、実験・実習・製図など、学生のみなさんが手を動かして学ぶべき科目について、なるべく多くの時間がとれるように努力はして参りましたが、残念ながら例年と同じ程度の時間を確保するには至りませんでした。また、前号（117号）で私は「登校開始後

は、高専だからこそその授業を楽しんでもらえればと思います」との記述をしましたが、授業を楽しんでもらう工夫を私自身がとれていなかったように思い、反省しています。

一方で、座学を中心とした遠隔授業の実施においては、これまで板書中心で行ってきた授業について、その内容の見直しを進めることができました。小さなモニターをとおしてのコミュニケーションしか取れず、お互いに苦勞することもありましたが、新たなツールとして今後もうまく活用できればと考えています。

最後になりましたが、西田友久教授が本年度末をもちまして定年退職されます。材料力学や機械設計製図など多くの授業をご担当いただきました。また、本校のOBでもあるため、同窓会と沼津高専をつなぐパイプ役としてもご尽力されてこられました。紙面をお借りして、感謝申し上げます。なお、次年度も再雇用教員として、引き続き機械工学科の教育にお力添えを頂きます。

在校生のみなさんとは、4月に元気に対面できることを心待ちにしています。保護者のみなさんには、引き続きのご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。



未来の社会システムを担う人になりたいなら電気電子工学科を覗いてみると良い

電気電子工学科長
大 津 孝 佳

電気電子工学科長の大津孝佳です。2020年度はコロナ禍ではありましたが、教職員12名が丸一となって、Society 5.0を担う未来産業人材育成を目指しました。学生達が担う未来社会では、電気自動車の自動運転交通システム、太陽光発電などを含む次世代電力供給システム、ドローンを始めとする運送システムなど、電力と通信のスキルが求められます。電気工学科は、その基礎となる

電気磁気学・電気電子回路から電気材料、電力工学などの知識とスキル、更に、通信やプログラミングなどの制御技術を融合させ、未来の社会システムを担う学科なのです。その為、未来に向けたスピード感を大切にしています。新1年生を始め、在校生の皆さんはそのスピードを感じていただけたと思います。

4月に入って、すぐに学科内コミュニケーションツールG Suiteを活用し、全学生と全教員がインターネットで繋がり、その後、Teamsも取り入れ、多面的なサポートの下、遠隔HRや遠隔授業など、E科スタジオでの授業、部分登校での学生実験の実施など、先生方も創意工夫されて学習機会の提供をして頂きました。先生方には遠隔ならではの対応もして頂きました。その中でも、「ながら見守りによる早期対応」など、早期の気づきとその対応

ができました。

学生達が主体となり、新しい発想でのオンライン新入生歓迎会やEスタ（E科スタディープロジェクト）などコロナ禍での挑戦する学生達も素晴らしいと思いますし、E科の魅力だと思います。

2021年度も電気電子工学科の3つの強みを活かして行きます。

1つめは、普及型教育の実践として、基礎学力の充実を目指した「Eスタ」です。上級生が企画・立案・実施し、下級生へ教えて学ぶ中での成長もこのプロジェクトの良さです。

2つめは、強化型教育の実践として、3年生「社会と技術」、4年生「PBL」、5年生「卒業研究」と繋げ、各教員の専門技術教育、情報セキュリティ教育、プログラム教育、知的財産教育、共同教育などにより、Society5.0社会に必要な社会システムを担う人材教育を目指します。

3つめは、地域との連携教育です。富士山や駿河湾、自動車産業など地域特性を活かし、出前授業やKV-BIKE（電池自転車）・環境エネルギー教育など、地域の幼・小・中学校との連携を行っています。

2021年度も宜しくお願い致します。



来年度へ向けて

電子制御工学科長
牛丸真司

保護者の皆様におかれましてはますますご健勝のこととお慶び申し上げます。日頃、電子制御工学科における教育と学科運営にご理解とご協力を賜りまして、心から感謝申し上げます。

本年度の5年生の卒業予定者は42名で、就職希望が24名、進学希望が18名でしたが、就職は22名が内定して2名が現在も活動中です。進学は、大学編入学7名、沼津高専専攻科9名、1名が研究生として残ることが決まっております。残り1名は専門学校へ進学の予定です。

今年度は、新型コロナウイルスにより生活スタイルを大きく変えることを余儀なくされた1年でした。5月半ばの始業、WEBによる遠隔授業や分割登校の実施など学校生活の基本的なところで変容を迫られました。部活動においては、

高専大会を始めとする主要大会の中止や練習期間・時間の制限などで、モチベーションを維持することが困難な状況が強いられました。また、大学進学や就職活動においても、編入・採用試験の遅れやWEBでの面接試験の実施、業種によっては採用枠の縮小、首都圏でのインターンシップの中止などといった影響を受けました。

ワクチンの普及や治療薬の開発によって来年度は“普通の生活”に戻れるとの期待感もありましたが、昨今の感染者数の推移を見ると、まだ暫く“with コロナ”の時代を覚悟しておくべきでしょう。ですが、私たちは既に1年近くの“with コロナ”の時代を経験して、手探りで始めた遠隔授業もやり方によっては対面授業以上に理解度やモチベーションを高める授業が可能なこと、感染リスクを下げる手立てを徹底することにより可能な活動もあることなどを学んできています。私たち教師の世代の1年と、10代後半の学生たちの1年の意味は全く異なることを自覚しつつ、教員一同、この困難な時代をどう生きるかをともに考えその指導に当たっていく所存ですので、保護者の皆様のご支援・ご協力を今後とも宜しくお願い申し上げます。



新しい世の中と教育の役割

制御情報工学科長
長縄一智

今年度は、COVID-19のパンデミック（全世界的流行）のために、多くの分野における実行形態が一変してしまいました。人類は、これまでも多くの災難を経験しており、災難が降りかかるたびに、多大な犠牲を払いながらも、それを終息させ、新しい世の中を作り出してきました。平時と異なり、有事にはいやおうなく新しい実行形態を作り込む必要があり、その中の幾つかは、平時に戻っても、継続・定着してしまうのである。

本校の令和2年度の行事についても、入学式や海外研修など「中止」されたものも多かったが、寮、高専祭、

中学生に向けた一日体験入学など「従来とはやり方を変えて実施した」ものもあった。

この、「やり方を変えて実施」をするには、その行事の目的を再認識し、現在の技術等も検討して、どうしたら現状と目的を違えずに実施できるかを考え、試行錯誤しながら実行するといったプロセスが必要となる。そのプロセスを考え抜くことが、新しい方式を生み出す推進力となるのであろう。

教育とは、「明日も今日と全く同じことを続けることで何ら問題ない事象」における必要性はあまり無く、今日とは全く異なるかも知れない別の明日をどのように生きていくのかということを考える為には有効なものとなるべきである。

今の社会に直ぐに活用できる工学知識を授けることは、教育において大切なことであるが、社会情勢が変化し、現行の工学知識や行動が全く役に立たなくなった時も、問題解決のために新しい方式を考え、実行していくにあ

たっては、教育を抛り所として、適切なる手段を見つける方法（プロセス）を学生に授けることこそ教員の役割であろう。

制御情報工学科の学科長を拝命し、早くも2年が経過



令和2年度を振り返って

物質工学科長
竹口昌之

コロナ禍で始まった令和2年度、学生と保護者の皆様には大変なご不便を強いた一年でした。物質工学科では皆様のご理解とご協力をいただきながら“学びを止めない”ことを第一に、教職員一同取り組んできました。本年度は令和2年5月19日より遠隔授業により始業しました。6月29日には分割登校が開始し、学内に学生が戻ってきました。後期より対面による講義も開始し、4・5年生については例年の受講体制が可能となりました。

前期を終え後期が始まった10月5～8日に、国立高等専門学校機構が本校学生に対し学びの状況に関するアンケートを実施しました¹。アンケート結果より本校物質工学科学生の授業に対する総合満足度は「満足している」、「やや満足している」が44.4%、「やや不満である」、「不満である」が23.7%であり、残りは「どちらでもない」でした。私が担当している物質工学科4年生の学生に満足している点を聞くと、遠隔授業になり講義情報が記録され、理解できるまで何度でも視聴が可能になったと意見をもらいました。一方、不満を抱える多くの学生がいます。学生や保護者からも「通信設備や通信環境に問題がある」や「教員との意思疎通が難しい」などの意見を伺っています。同様の不安は教員からもあり、「通信環境が学生により異なるため、同一指導が困難」、「学生の反応や理解度が対面授業に比べわかりにくい」や「遠隔下での演習や実験には限界がある」などの意見があり、現状では個々の教員が試行錯誤している状況です。

物質工学科では5月19日より学生実験を含めたすべての科目を遠隔下で実施し、対面実験が可能となる6月29日までは実験説明と実技を伴わない演習等で対応しました。化学工学実験（4年生）では日々行う“操作”を化学工学で学んだ単位操作として捉え、不便を解消し、さらにより良い方法になるようにオンライン下でのグループワークを実施しました。ネットワーク下での議論が可能であるか心配しましたが、この成果を学内パテントコンテストに応募したところ4件が入選し（学内全体26件

しました。この間、学科内外の教員、職員、保護者各位からは、多くのご理解ご協力を賜りました。最後になりましたが、この場をお借りしてお礼申し上げます。

応募、9件入選)、そのうち物質工学科4年の伊井ひなたさん、後藤彩那さん、道端遥香さんは優秀賞を受賞しました。6月末より分割登校での実験が可能となり、遠隔下の学生については、無機分析化学実験（2年生）では演習、有機化学実験（3年生）では講義と実験予習、レポートの作成、化学工学実験では登校学生（実験担当）と遠隔学生（解析担当）がペアとなり遠隔実験を行う対応をとりました。有機化学実験では対面での実験日数の不足分について技術職員が実験動画を作成し、映像資料による模擬実験を行いました。準備時間も限られていたため、実施後の省察と次の実験の準備の繰り返しでした。教員として本当にすべきことは何かを考える機会となりました。同僚より紹介された本に「学ぶ」とは“何かに気づき自分が変わること”とありました。今まさに多くのことを学んでおります。物質工学科では今後も「学びを止めない」ことを第一に、学生と教員がともに学ぶことの必要性を共有できる環境づくりに励んでいきたいと考えております。

さて、このような制限された環境下においても学生は学びをつづけ、成果を収めております。まずは5年生の進路です。本年度、コロナ禍が学生の就職、進学に与える影響は少なからずありました。それでも、就職希望者15名の内定を得ることができました。進学予定者21名に関しては、本校専攻科進学8名、大学編入学13名でした。卒業生の今後の活躍を期待しております。次に、令和2年10月30-31日にかけて長岡技術科学大学にて行われた国際会議「The 5th International Conference on “Science of Technology Innovation” 2020 (5th STI-Gigaku 2020)」において、オンラインで口頭発表を行った物質工学科5年のプリンヒルミカエ アナ シティンさんと伊藤甚太さん（指導教員 藁科知之准教授）が、優秀発表に贈られるBest Research Presentation Awardを受賞しました。

本原稿を執筆している12月末において、新型コロナの収束を感じる事ができていません。私たち教職員が行う遠隔授業も内容や技術面で改善すべきことが多くあることを承知しており、日々試行錯誤しながら善処しております。物質工学科教職員は学生を教育目的に掲げた技術者に育成するため、保護者の皆様のご協力をいただきながら、新しい生活様式での学園生活を築いていく所存です。次年度も宜しくお願い致します。

¹ 独立行政法人国立高等専門学校機構、「高専での学びの状況」



1年間の遠隔授業を終えて

教養科長
佐藤 崇徳

分割登校を取り入れながら遠隔授業を1年間行うことになり、学生の皆さんには大変な苦勞をかけてしまいました。遠隔授業の舞台裏を少しでも皆さんにお伝えさせていただきます。教養科が提供する授業は教育課程の約半分を占め、様々な授業科目があります。各教科の性質にあった授業形態を模索しました。ここでは教養科の事情と関係した二つのこととお話しします。

ひとつは複数クラスの同時開講です。5月に遠隔授業を開始するにあたり、同時開講の検討を促されました。情報ネットワークの通信量を抑えるためです。ある時間にM1は国語、E1は地理…とクラスごとに異なる授業をライブ配信すれば1学年で5科目の授業映像を送出することになります。これを「この時間は1年生は全クラス国語の授業」とすれば送る映像は1科目分で済むのです。一度に二百余名を対象にオンライン授業を行った科目がいくつもあります。チャットやアンケート・フォームで何か質問すると二百名もの母集団から一気に応答が

あるのは、これまでにない経験でした。その一方で、一人ひとりの学生に十分に目を配れない弱点も当然ありました。さらに、同時開講前提の時間割のため、分割登校が始まってからも担当教員が教室におらず、登校した学生がほかの教室や教員室から送信される授業をパソコン等を使って受講するということが生じてしまいました。

次に非常勤講師に関することです。一般科目は幅広い分野にわたり授業数も多いことから、非常勤講師による授業も少なくありません。非常勤講師は決められた授業時間のみ勤務する契約になっています。このため遠隔授業の準備に割ける時間もおのずと限られます。本校での授業日以外は複数の大学や高校に勤務されている場合も多いのですが、A大学ではZoom、B大学ではGoogle for Educationというように各校で異なるソフトウェアの使用を求められたため、本校で用いるMicrosoft365への習熟が十分でなく、遠隔授業に際して学生の皆さんに迷惑をかけた場面もあったかと思えます。

学生全員と対面で授業をできないもどかしさの一方で、ICT活用の長所を実感した場面もありました。来年度以降は対面授業の良さとICTの利点をうまく組み合わせた授業を行うことができると考えています。

最後に教養科の教員の異動をお知らせします。数学の遠藤良樹先生と寮監の合田俊弘先生が今年度末で定年退職となります。



ドイツ語の授業



音楽の授業



国語の授業

行事・コンテスト・その他イベント

体 育 祭

オンラインでのクラブ紹介

体育祭実行委員長 電子制御工学科4年
齋 藤 達 志

今年度は新型コロナウイルスの影響で本校においても様々な影響がありました。特に学生会が主として行う行事においては、対面式や新入生に向けたクラブ紹介、体育祭などが中止となりました。また、通常のクラブ活動も禁止となりました。私自身は陸上競技部に所属しており、夏の高専大会に向け本格的に練習を開始する中での出来事だったので、とてもショックでした。クラブ活動を再開できない状況が続き、クラブ活動に対するモチベーションも全体的に下がっていったように感じました。

私は体育祭実行委員長として、中止となった体育祭の代替となる学校行事の時間を利用して、オンラインでのクラブ紹介の実施を提案しました。それにより、本校のクラブ活動を知らない1年生が入部を検討してくれたり、

オンラインではあるもののクラブの仲間同士で話すきっかけとなるなど、学生達のクラブ活動へのモチベーション向上に繋がられるのではないかと思いました。私はクラブ紹介の動画の回収や編集等を行い、どの学生でも閲覧できるようにクラブ紹介動画をまとめ、全学生に周知しました。

今回実施したクラブ紹介を境に、活動時間の制限付でクラブ活動が再開されました。私も陸上の練習を学校で出来るようになり、1年生が数名入部してくれたときは、企画して良かったと思えました。実施後のアンケートでは「クラブの活動内容が遠隔でも分かりやすかった」、「〇〇部に入りたいと思った」などのコメントと、5段階評価で4以上の評価を得ました。また、ロボコン部をはじめとする本校のクラブが全国レベルで記録を残してくれてとても嬉しいです。

最後に、今回実施したクラブ紹介を通して、企画の立案、準備、実施と運営を経験し、さらにそれを評価してもらえたことは、私が今後エンジニアとして社会に出ていくうえで、とても貴重な経験になったと思います。今後も、この経験を糧に環境がどう変わっても頑張れると思います。

今までとは違う1年と体育祭

体育祭実行委員長 機械工学科4年
森 湧 真

今年度は新型コロナウイルスの影響で様々なことが変わりました。本来は4月から始まっていた授業が延期され、授業開始後からも慣れない遠隔授業という体制で、勉強が今までと同じように身に入らないなど頭を抱えることもありました。遠隔授業は継続され、一部の科目では遠隔での期末テストが実施されました。後期には本格的に分割登校が始まりましたが、座学の科目においては遠隔授業という体制は変わりませんでした。高専祭や各種説明会、学外実習など多くのイベントも新型コロナウイルス感染症対策の影響で縮小され、体育祭においては今年度は行うことができませんでした。本来であれば授業ばかりの毎日を送っている学生の息抜きや、運動を行う習慣が比較的なくなってしまいがちな学生の数少ない活動の場として体育祭は大きな役割を担っていると私は考えていますが、球技などのスポーツでは学生同士が密集し、接触が避けられないとして、中止となった事はやむを得ないと思います。もし来年度に体育祭が開催することが叶えば1年ぶりの体育祭となります。そうなった時には次期体育祭実行委員長や実行委員と共に、今まで以

上に多くの学生に楽しんでもらえるような体育祭の手伝いをしていけたら良いと思っています。またこれから長い春休みに入ります。健康や体力づくり、新しい年度が始まる前に良い生活リズムづくりに運動を習慣づけてみてはどうでしょうか。運動の習慣を作ることで今よりも少しだけ活動的な1日を送れるかもしれません。



高 専 祭

高専祭をおえて

高専祭実行委員長 物質工学科4年
飯塚 柊斗

今年度の高専祭は「Echo」というテーマのもと高専祭を行いました。55回目という1つの区切りに高専祭が縮小されてしまったことはとても悔しく思います。A日程とB日程に分かれての開催、スタッフ活動の禁止、外部の来場禁止、前夜中夜キャンプファイヤーやファイナルセレモニーの中止など、コロナによる影響は挙げればきりがありませんが、ネガティブな事は以上にします。ただ、こんなモチベーションが低い中でも高専祭を成功させようとしてくれる仲間はたくさんいました。まず、長のみんな。スタッフが少ない中最後まで長でいてくれてありがとうございますと心から感謝しています。1回目の高専祭の雰囲気は僕は少し落ち込んでしまっていたのですが、みんなはもう2回目に活かせることを考えていてびっくりしました。僕の気持ちが救われた1つの出来事でした。もっとみんなと長会をしたかったし、もっとみんなで騒ぎた

かったです。長になってくれてありがとう！！

そして、スタッフに入ってくれたみなさん。スタッフ活動がなかったため、自分の時間を削って高専祭に貢献してくれたと思います。その姿を見るたびにやる気が上がっていったことを思い出します。本当にありがとうございました！！

また、高専祭に来てくれた学生の皆さんにも感謝しています。本当に誰もこないんじゃないかと不安で眠れない夜もありました。それはただの思い過ごしで、予想しているよりたくさんの方に来ていただきました。本当にありがとうございました！！

最後に、高専祭顧問の横山先生と小谷先生。大部分が優しく、時に厳しくも的確なご指導をいただきました。僕は先生方に頼りすぎたと反省しています。すみませんでした。僕らの気持ちを尊重して動いてくださった先生方のことは一生忘れません。本当に感謝しています。この高専祭で自分はトップとして力不足と改めて思い知らされました。優柔不断だったり、喋りが下手だったり、自分の気持ちが前に出てしまったりと色んなことに気づけました。これからの人生で大切なことをたくさん学べて良かったです。来年度の高専祭がより良いものになることを期待しています。

知財の寺子屋活動報告

駿河湾を知財創造教育の キャンパスに

知財のTKY顧問
大津 孝佳

Society5.0を担う価値創造型の未来産業人材育成を目指し、『知財のTKY「寺子屋」』を設立し、6年目を迎えることができました。地域特性を活かし、TRIZ（特許分析から生まれた発想法）を武器に、本物への挑戦を通して、課題発見し、アイデアを創造し、解決に挑む。特に、理想と現実を理解し、その差を明確にすることで技術課題の解決策を育むといったEducation-TRIZの『トングスモデル』の実践を行っています。主な活動は、(1)未来モビリティ産業の地域特性を活かし、充電式単三電池40本で鈴鹿サーキットの国際レーシングコースや、ツインリンク茂木のスーパースピードウェイに挑むKV-BIKE（電池自転車）のレースへの挑戦。(2)日本一深い駿河湾（深海2500m）の地域特性を活かした駿河湾沼津の深海調査活動です。

2020年度はコロナ禍により、鈴鹿大会も茂木大会も中止となりましたが、Ene-GP SUZUKA全国大会での記録を始め、特に、Ene-GP MOTEGI全国大会での4年連続表彰台の大記録は輝き続けています。

2020年度の駿河湾深海調査もコロナ禍により、延期となっていますが、リアルタイムモニタリングシステム（DREAM）での2016年海底100m（DREAM_I）、2017年230m（DREAM_II）、4K映像撮影システム（PIXY_I）での、2018年530mと1030m、2019年のPIXY_IIでの深海1530mの4K撮影など、これまでの実績や蓄積されたデータなどをもとに、地域自治体や企業との連携を進めることができました。

その一つが活用を意識した創造の実践です。深海の魅力を表現するために、『幸せを呼ぶ魚』と言われているシーラカンスの等身大モデルをマイククラフトで設計を行い、実際にアーテックブロック1万1千個で実現しました。思ったものを自由に形にしたいが、強度が必要であるという技術矛盾にTRIZの発明原理で挑み、更に、その著作物には『価値』が生み出されることを実践的に体験するというものです。作品は、ららぽーと沼津で開催された沼津市のLOVE NUMAZUのイベントの後、1カ月間ららぽーと沼津で展示され、更に、現在、沼津港深海水族館の本物の冷凍シーラカンスの隣に展示されています。

知財のTKYでは、これらの本物への挑戦を通して育んだ課題発見・解決能力を活かし、全国パテントコンテストに応募しています。M4の鈴木涼太さんは3つの特許を有し、2017年度入賞した「刃物研ぎ器」は、2018年度に権利化（特許権）し、2018年度にその商品化にむけて、6名の学生達と「ハトギプロジェクト」を結成し、2019

年度に地域企業の協力の下、商品化しました。2020年度は全国パテントコンテストの最高峰である『特許庁長官

賞』に輝きました。



3Dブロックプロジェクト



ハトギプロジェクト

第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト

11年ぶりの挑戦に向けて

プロコン同好会顧問
鈴木 康 人

令和2年10月10日、11日と二日に分けて、第31回全国高等専門学校プログラミングコンテスト（以後、高専プロコン）は苫小牧高専を主管として開催されました。高専プロコン自体は実は高専ロボコン大会について古い歴史を持つ高専のコンテストです。

高専プロコンは運営事務局が指定した課題に取り組む「課題部門」、時局にちなんだ課題であれば選定されやすい「自由部門」、総当りで解くことができる、ときには対戦ゲームのような課題に取り組む「競技部門」の三つの部門があります。プロコンというとプログラムだけを作ると誤解されがちですが、コンピューターを含んだシステムであり、「課題部門」や「自由部門」の各課題に適したものであれば、様々なモノも含めて応募できます。本

校はここ数年、競技部門では決勝戦に残る実績を残してきました。本年度はコロナへの対応として「競技部門」は中止となり、残り2部門も全国大会参加の数を半分としてオンラインで開催されました。

本校は6月に両部門をエントリーし、8月の書類審査で「自由部門」の予選突破が決まりました。「自由部門」の全国大会出場は11年ぶりとなります。

正直な話、私は、競技部門以外の部門は審査員となる方の興味や現在の社会情勢が審査基準として重みをもっていると考えています。今回は提案したシステムが審査員のめがねになかったようです。ですが傾向として地元の抱える課題を解消するシステムが重視されると思っています。指導教員としての力量不足を痛感しますがこうした課題を見つける方法を現在も模索しております。何かご提案がございましたらお声がけいただけますと大変助かります。

8月から10月までの間、学生たちは、例年と異なる学校生活の中でベストをつくしておりました。今回の敢闘賞受賞はその成果であると考えています。来年度以降も変わらぬご協力をご声援をお願いいたします。

9年ぶりの決勝進出 ～プロコン同好会の挑戦～

プロコン同好会 制御情報工学科3年
相 澤 大 和

今回、第31回高専プログラミングコンテスト（高専プロコン）自由部門にて、同部門では9年ぶり決勝進出を遂げることが出来ました。

今年度の大会では、感染症拡大防止の観点から、例年開催地区へ集っての開催だったものからフルリモート開

催に変更という形になり、それに伴い、今年は競技部門が中止、課題自由部門の決勝出場校がそれぞれ20高専から10高専へ引き下げられ、通常よりも決勝出場が厳しい形となりました。

結果は残念ながら敢闘賞となりましたが、このような環境の中、9年ぶりの決勝進出を果たすことが出来たことは、プロコン同好会全体にとって今後における大きな一歩となると考えています。

今回、アイデア出し・開発ともに難航し、スタートからゴールまでかなり厳しい局面が続きました。

アイデア出しの段階では、最初に複数の案が挙がった

ものの、調べてみると、その殆どが既に似たような製品などが多く存在しており、それらとの明確な相違点などを見つけ出すことに苦勞し、採用するアイデアの決定にも遅れが生じるなどしました。

開発においても様々な予期せぬトラブルなどに見舞われたり、開発に使用したツールなどの仕様の把握に手こずるなど、多くの苦勞がありました。

そんな中でもなんとか最低限動作するソフトウェアを開発し、決勝本番に間に合わせることができました。

しかし、結果としては、私達の満足に行くソフトウエ

アが完成したとは言い難く、決勝進出を果たしたとはいえ、苦い結果になったと我々は認識しています。

これらを踏まえ、来年度に向けて我々は既に活動を開始しており、次回こそは、満足の行く成果を持ち帰ろうと思います。

さて、我々プロコン同好会は常に新たな仲間を募集しています。

未経験者向けの講習も行っています。

プログラミングに少しでも興味がある人は、ぜひともプロコン同好会に入会してください。

ロボットコンテスト2020

ロボコン大賞への軌跡 ～顧問の視点から～

ロボコン部顧問 電子制御工学科
青木悠祐

日頃よりロボコン部の活動へのご理解とご声援をありがとうございます。第33回アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテストはロボコン史上初めてオンラインで開催されました。競技課題は「はぴ☆ロボ」、だれかをハッピーにするロボットを作ってパフォーマンスを披露するコンテストでした。6月にルールが発表されたタイミングでは、本校は分割登校による対面授業が始まったばかりでしたが、自宅や寮の自室で集まらずに開発をすること、ミーティングは全てオンラインで行うことなどを決め、沼津高専ロボコン部として2チームが出場しました。

東海北陸地区大会では、2年生が主体となったAチーム「イルミネーター」は予選ラウンドで20チーム中8位となりました。決勝には進めませんでしたが、特別賞(セメダイン株式会社)を受賞しました。12機のロボットをぎりぎりまで調整し、集団行動パフォーマンスを披露で

きたことは大きな成果でした。Bチーム「チャリモ」は予選ラウンドを1位で通過し、決勝トーナメントでも予定通りのパフォーマンスを発揮した結果、最優秀賞(例年の優勝)を受賞しました。ルールが発表されて以降、毎日のようにTeamsのオンライン会議を開き、議論を重ねている学生たちを見てきましたので、限られた時間を活用しながら活動を進めてきた努力がこうして形となって表れたこと、顧問として本当にうれしく思います。

そして全国大会までの約1ヶ月間、更に良いパフォーマンスをするためにロボットを改良し、2台のロボットによる遠隔サイクリング、2輪自立走行でのカーブ走行を実現しました。その結果、全国大会では総合2位となり、超はぴ☆ロボ賞(例年の準優勝)を受賞しました。また、大きな夢とロマンを持ってロボットを製作し、唯一無二のアイデアを実現、見る者に深い感動を与えたチームに贈られる賞である、最も榮譽のあるロボコン大賞を初めて受賞しました。「誰でも、いつでも、どこへでも行けて、ハッピーになれる」という遠隔サイクリングのアイデアが高く評価される結果となりました。

大会終了後、表敬訪問やイベント展示、取材などありがたい出来事が続いています。ロボコン部に、学生達に注目していただくことが何より嬉しいです。今後ともロボコン部の活動へのご理解と部員達へのご声援をよろしくお願いいたします。

努力が実った時

ロボコン部部长 電子制御工学科4年
榊原あおい

今、これを読んでいる皆さまは、「高専ロボコン」はご存知でしょうか。NHKが主催する「アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト」という名称で、毎年異なる課題に挑戦するロボットを製作し、全国の高専で競い合う大会です。その大会に挑むべく高専に存在する部活が、「ロボコン部」というものです。

今年は、コロナ禍の影響もあり、オンラインによる大会となりました。例年とは違う日程となり、6月に課題

発表、10月に地区大会、11月に全国大会が行われました。競技課題は、「だれかをハッピーにするロボットを作ってキラリ輝くパフォーマンスを自慢しちゃうコンテスト」略して「はぴ☆ロボ自慢」で、今まで培ってきた技術とアイデアで暮らしを豊かにし、人々を幸せにするという課題です。

沼津高専からは、2年Aチームの「イルミネーター」と3年Bチームの「チャリモ」の2チームが出場しました。イルミネーターは、光を用いたロボットで人々を魅了し、チャリモは、いつでもどこでもサイクリング気分を味わえる、自転車をコントローラにした自転車型ロボットを使い、ハッピーにする作戦でした。結果は、Aチームは地区大会にて「特別賞セメダイン賞」を受賞し、Bチームは全国大会に進出し、「超はぴ☆ロボ賞」とロボコ

ンにおいて最も名誉な「ロボコン大賞」を受賞しました。沼津高専がロボコン大賞を受賞したのは初でした。

去年の反省を生かし、各チームの努力がこの結果を实らせた、私は考えております。今年の体制は、4、5年が事務仕事や、ステージ作成などロボット製作以外の作業を行い、2、3年はロボットの製作に注力できるようにする体制で行いました。去年は、一人に任せている仕事量が膨大だったためにロボットの製作が遅れてしまい、いまいちな結果となっていました。また、1年から

努力し積み重ねてきた経験と技術が、Bチームを「ロボコン大賞」まで支えていたと思っています。

今年私は、チームとして参加することは叶いませんでしたが、本気で活動してきた部員の努力が実った瞬間を見られたことを光栄に思っています。これまで応援してくださった皆様、本当にありがとうございます。これからも精進してまいりますので、引き続き温かい心で見守ってくださるようお願い申し上げます。

新入生から

こんな時だからこそ

機械工学科1年
古川 碧

私は将来エンジンの設計士になりたいと考えています。保育園のころから自動車が好きで、いつしかその中心部であるガソリンエンジンを設計したいと思うようになりました。しかし近年、ハイブリッドカーや電気自動車などの開発・普及が進み、ガソリンエンジン車が注目を浴びることが少なくなってしまいました。それに加えてヨーロッパ諸国でのエンジン搭載車の販売規制も行われる予定です。この、「エンジン搭載車」というのはハイブリッドカーも含めるという国がほとんどで、本格的にエンジン搭載車の行く先が暗くなっています。幸いにも日本では規制の予定はなく、今後も開発が続けられるのではないのでしょうか。

世界的に見て危機に瀕しているエンジンですが、今年は私たちも危機にさらされています。

新型コロナウイルスによるものです。これにより、私は予想していた高専生活とは全く異なる生活を余儀なく

されました。一ヶ月半近くにわたる休校に、遠隔授業、分割登校、学校行事の延期・中止などなど。その中でも特に大きかったのは座学の授業が遠隔になったことだと思います。普段なら先生が目の前で黒板を使って授業を行うのですが、今年はパワーポイントやPDFといった電子ファイルとTeamsを併用して行う授業がほとんどでした。自分でスライドを確認して解説を受け、確認課題を送信する。これが授業の流れです。このほとんどの作業を自分一人で行わなくてははいけません。つまりは、授業を受けるも受けないも、課題を出すも出さないもその人の自由なのです。何が言いたいかというと、「自主性がいつも以上に重要」ということです。情報機器を前にして一人で学習を進めることは、僕にとって簡単なことではありませんでした。ですから、授業と休み時間の切り替えや放課後の時間の使い方などを自分で決めて、有効に使うように心がけました。

いつもとは違った環境の中で、より一層「自ら課題を見つける力」、「自分で課題を解決する力」がついたように感じます。この力は、将来仕事でつまづいたときにきっと役に立つと思います。今年の経験を活かしつつ夢に向かって進んでいきたいです。

非日常に感じること

電気電子工学科1年
井村 蒼馬

1年の4分の3程度が経過し、生活にも慣れてきた今日。私は中学の頃の私と何か変化があったのでしょうか。

しかしながら、目に見えた変化を感じていません。変化など端から不要なものではないかとすら感じる次第です。

新型コロナウイルスの影響で、入寮も授業も延期が続いた4月。中学の頃の友人は日常を取り戻している中、私だけは何もしていないが、ただ時が流れる。縋るもの

もない心境に、何らかの刺激を求めている日々が懐かしく感じられます。

5月に授業が始まり、先生方やクラスメイトの声を聴くことができたことは、大きな安堵感とモチベーションになり、嬉しく感じたことを覚えています。

9月にBグループの登校期間が始まり、新生活を迎えました。そこで初めて半分のクラスメイトの顔と名前が一致しました。家に戻りたくないと思うほど充実的で刺激的な毎日を送れたと感じています。クラスメイト、寮で親睦を深めた友人や先輩方、先生方、ありがとうございます。

私は、周囲を取り巻く環境の変化は、必ずしも個人の変化に繋がるわけではないと思っています。誰しもが、自我を芯に秘めているということです。それが多様性で

あり、個人の尊厳であることに違いはないでしょう。

ここまでの日々の中で、沼津高専は、そういった多様性や多面性を容認する学校だと感じました。そして、私たちに求められていることは、多面性を重視しながら集団を形成していくことだと思います。

私の憧れは仲間たち

電子制御工学科1年
和田 莉 央

高専に入学して早1年が経とうとしています、入試が終わり合格が分かった時泣いて喜んでいたことが昨日のように感じます。私の学校生活は思わぬ形で始まり、合格がわかった時から楽しみにしていた入学は予定通りの時期にできずオンラインでの授業が始まり、初めて学校に登校することができたのは夏が過ぎた9月の事でした。コロナウイルスの影響によって自宅でのオンライン授業となり高専の友達が一人もいない中での授業はとても心細かったことを覚えています。しかし、自宅で心細かったぶん登校できるようになってからはとても充実した楽しい毎日を送ることができました。

仲間たちと日々を過ごしていく中で私がこの学校に入っ

来年度も分割登校は続くのか、遠隔授業は続くのか、この生活には先が見えません。ですが高専生活はまだ始まったばかりです。いつか思い出したとき良かったなと思えるような日々を築いていけたらと思います。

好きなこと得意なことに自信を持ち伝えることができていることだと思います。例えば実習の時に分からないところがある時は詳しい友達が細かく教えてくれ、勉強が得意な友達と一緒に私の苦手な教科を勉強してくれるなどそれぞれが得意なことを自分だけのものにせず周りの友達にも共有してくれるのです。これは自分の能力に自信を持っているからこそできることだと思います。私は、自分に自信を持つことが小さなころから苦手なので自分の能力に誇りを持ち、周りの友達に自分の能力を共有できることは誰にでもできることではないとわかります。ですから、私の仲間たちは本当にすごい人ばかりだといつも思います。私はまだ自分の得意なもの、これだけは誰にも負けないというものを見つけることができていません。だから、私も自分だけの誰にも負けない強みを見つけてそれを自信を持って伝え、教えられるようになり、誰かの助けになればいいなと思います。そのために、今のうちから色々な分野に触れ、たくさんの方に興味を持ち学んでいきたいと思っています。

留学生から

人生の新たなチャプター

電子制御工学科3年
タン フィ スエン

皆さん、はじめまして。タン フィ スエンと申します。マレーシアのマラッカ州から参りました。マラッカ州は歴史のある町で、マレーシアの南のほうにあります。毎年4月に、マレーシア政府派遣の国費留学生が日本の高専に来ますが、今年はコロナウイルスの感染のため、政府が国境を閉じたので、日本に来ることができませんでした。マレーシアで一人で遠隔授業を受けて、クラスメートと会えなくて、本当に寂しかったです。実験と体育の授業にも参加できなくて、つまらなかったです。当時、コロナウイルスの状況が悪くなって、いつ沼津高専に行けるのか心配しました。

5か月の後、10月22日ようやく日本の成田空港に着きましたが、コロナウイルスの防止対策として、直接沼津高専に来ることができず、東京研修センターで隔離生活を過ごしました。せっかく東京にいたのに、2週間ずっ

と部屋にいなければならなくて、どこにも行けませんでした。11月6日に研修センターから出て、新幹線に乗り沼津高専に来ました。ついにクラスメートと出会えて、一緒に勉強して、とても楽しかったです。日本に着いたばかりなので、いろいろなことをまだ知りませんが、友達と先輩達がやさしく教えてくれて心から感謝しています。そして、授業が分からなかったときにも、先生が詳しく説明して下さって本当にありがたいです。留学生の私にとって、日本の冬は非常に寒いですが、身の周りの人々の親切さに体も心も暖められたように感じました。

こんな特別な状況の中でも日本に留学することができた自分をラッキーだと思います。これから人生の新たなチャプターに入り、3年間をかけて基礎知識及び専門的な知識を学び、様々な技術を身に付けて、将来社会の役に立つ優秀なエンジニアになるように努力します。どうぞよろしくお願いいたします。

こんにちは

制御情報工学科3年 ウィラ ワリヤディン

皆さん、初めまして。インドネシアから来たウィラ ワリヤディンです。いつもウィラと呼ばれています。私は2019年4月に来日して、東京日本語教育センターに行っていました。そして2020年に沼津高専に進学して、いま制御情報工学科の3年生です。よろしくお願いします。

インドネシアと言えばバリ島だと思っている人も多いかもしれませんが、インドネシアは東南アジアにある大きな国です。どれぐらい大きいかというと、インドネシア列島はヨーロッパと同じぐらい幅が広いです。人口は約2億6千万人で、世界で4位です。インドネシアには633の民族がいて、700以上の言語が使われています。公用語はインドネシア語で、インドネシア人はほとんどみんな二つか三つの言語を話すことができます。ちなみに私はスンダ族で、スンダ語、インドネシア語、英語、日

本語、4つの言語を話すことができます。

2020年3月25日、私は東京の新宿駅から三島駅に新幹線ではなく、普通の電車に乗って来ました。なぜかという私は駅が好きで、まだ知らない駅で乗り換えたりするのが好きだからです。沼津に着いた時、先輩方や先生方が温かく迎えてくれました。春休みだったので、寮には留学生の先輩しかいませんでした。そしてその日に、先輩たちが鮎壺の滝や近くのスーパーに案内してくれました。「留学することで視野が広がる」というフレーズを聞いたことがありますか？私は、それはただのベタなフレーズだと思っていました。実際に日本に来て、日本だけではなくたくさんの国から来た人と出会ったり、お互いの文化を学び合ったりすることができて視野が広がりました。

今まで高専で過ごしてきたこの8か月間は新型コロナウイルスの影響で、教室や寮の部屋で遠隔授業を受けて過ごしてきましたが、先生方や友達のおかげでたくさん学んで、成長できました。一つの大事な思い出にします。そして、これからももっと思い出を作りたいと思います。改めて、よろしくお願いします。

入学が11月の留学生

物質工学科3年 ティオ ケンジ

皆さん、こんにちは。マレーシアから参りましたティオ ケンジと申します。いつもケンジと呼ばれています。

私は2018年5月にマレーシアの日本語学校に入って、日本語の勉強を始めました。その前は日本語がぜんぜんわからなかったもので、最初の授業は私にとってすごく難しかったです。あきらめかけたこともありましたが、あきらめたら日本に留学できないと思ったので、一生懸命に日本語を勉強しました。先生と日本語学校の友達もいろいろ教えてくれたおかげで、しばらくして日本語の勉強が前よりもそんなに難しくなくなって、面白くなりました。マレーシアで1年半日本語を習った後、2020年1月に文部科学省の試験を受けて、合格しました。

実は2020年4月1日に日本に来る予定でしたが、残念ながら新型コロナウイルスのせいで、4月に日本に来ることができなくなってしまいました。ずっと半年間マレーシアで遠隔授業を受けて、最初のとき先生の話のスピードに慣れない場合もありましたし、同じクラスの友達と直接会えなくて、友達と話すチャンスもないし、とても大変でした。しかし、一番大変なのは実験でした。学校に登校できないため、この半年間の実験はリモートでやりました。友達と一緒に実験をすることができないのは本当に残念でした。そして、実験レポートの書き方もあまりわからなくて、毎回のレポートを作成するのに、た

くさんの時間がかかりました。マレーシアで遠隔授業を受けていた時、いつ日本に行けるかよく心配していました。毎日日本のニュースを読んで、外国の留学生が日本に入国できるかどうかに関するニュースを気にしていました。

ついに、10月1日に外国の留学生が日本に来ることができるようになりました。このニュースを聞いて、すごくうれしかったです。いろいろな日本への準備ができた後、10月22日に日本へ無事に来ました。日本に着いて、東京研修センターで2週間隔離された後、11月6日にやっと沼津高専に来ることができました。高専に着いてから既に1ヶ月経って、沼津高専での生活にも、だんだん慣れてきました。日本に来たばかりですから、たくさん困ることがあります。しかし、先生方、先輩方とクラスの友達のおかげで、高専生活と寮生活は楽しくて、大きな悩みもなく過ごしています。これからまだ2年半の高専生活があるので、もっと頑張って人生で忘れられない時間にしていきたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。



学生会活動について

制御情報工学科4年
川嶋玲志

今年度、学生会長として沼津高専を盛り上げ、学生が楽しめる行事や環境を目指し努力してきました。しかし、このコロナ禍という状況下で行えたことはあまりに少なく、結果的に自らの目標には遠く及ばない1年だったと考えています。それでも、すっぱりと諦めることなく、できることを尽くした1年だったとも考えています。

沼津高専は、学生の安全はもちろんのこと、学生寮の寮生の安全も守らねばなりません。ただ、毎日の遠隔授業で気が滅入っている学生や、部活動などの大会に向けた活動ができない学生がいるのも事実でした。そのような問題を解決するにあたり、大切なのが「学生の意思」だったと考えています。

部活動については、部長学生から部活動を再開したいという声を聴き、部長会で協議したうえで、安全性も考慮した部活動にするため学校側と何度も会議を重ねたの

ち、部活動、同好会の希望により活動時間を延長するというシステムが生まれました。そして、例年は外部の方もお招きして大規模に行っていた高専祭も、一時は取りやめの段階まで話が進みましたが、伝統を途切れさせたくないという実行委員などの要望により、規模を縮小し学生のみが参加可能な形で無事行うことができました。

以上のように、学生会として、活動や行事において全力で学生をサポートしてきましたが、それに並行して、学生会主催の企画なども多く計画しました。実現の難しい企画や、なかなか許可を得られない企画がありつつも、この状況下でできるだけことに挑戦すること自体に価値があり、来年度以降に繋げるために意味あるものだったと感じています。

今年度行えた活動、行事には、もちろん学校側の協力や、学生の意見を大切にしてくださる姿勢が不可欠でしたが、それ以上に学生自身の意思が重要だったと感じています。自他ともに苦しい1年ではありましたが、それ以上に成長するための経験値が得られる1年でした。

寮生会活動について

機械工学科4年
古田皓晟

令和2年度の寮長を務めさせて頂いた機械工学科4年の古田皓晟と申します。本校の寮も新型コロナウイルス感染防止対策を行う必要性から、60年弱積み上げられてきた、寮運営のシステムやルールを大幅に変更する必要がありました。例えば従来印鑑や紙面を用いていた点呼や外泊等と各種届出は、極力三密を避けるために全て電子化する必要がありました。また、今まで自由だった食事や入浴の時間は、感染防止対策のために、階ごとに細かく定める必要がありました。このように何かと制約が発生し、突然変わったルールに適宜対応しなくてはならない状況の中、最後まで寮生活を送って頂いた寮生の皆様には本当に感謝しています。寮生無くして寮生会は成り立ちません。様々な感染症対策にも関わらず協力いただいた皆様のおかげで比較的スムーズな寮運営が行えたと思います。今年度は例年とは違いイベント事も少ない中でしたが、寮生の皆さんが寮生活を通して何か成長出来たこと、何か得るものがあったなら寮長としてこの上なく嬉しく思います。そして、コロナウイルスによる様々なシステム改革に柔軟に対応して頂いた各役員の皆様には頭が上がりません。例年は相方のいる階長、棟

長、事務役職等の様々な役員が、今年度は相方無しでの運営を余儀なくされました。初めてやる仕事で頼れる相方がいないというのは本当に不安な事だと思います。そのような状況の中でも手を抜くことなく、コロナ禍に柔軟に適応してくれる役員が多く、本当に助かりました。今年度の役員経験は是非今後の人生に役立てて頂きたいと思っています。

寮生の他にも、様式の変った宿直業務に対応して頂いた先生方、WiFi機器の交換に協力して頂いた教育後援会や情報処理センターの皆様、頻りに日程の入れ替わる中、寮生の荷物搬出入に協力頂いた保護者の皆様、善行表彰をして頂いた地域自治体の皆様など本当に多くの方の協力を頂き、今年度の寮運営を無事に行うことが出来ました。この場を借りてお礼を申し上げます。本当にありがとうございました。



退職教職員から



沼津高専と私

機械工学科

西田 友久

私が沼津高専機械工学科に入学した1973（昭和48）年は、オイルショックによるトイレットペーパー不足が発生して学生寮は大変な騒ぎでした。それからしばらくの間、就職状況等にも影響は及びました。そして教員を退職する今、コロナ禍でマスク不足と感染の恐怖に見舞われることになるとは想像もできませんでした。

私の高専時代は少林寺拳法部を設立して活動したり、家庭教師や鉄工場アルバイトをして東北・北陸・四国などを旅行したりしました。4・5年生では進学のための猛勉強と高専祭のためのホバークラフト（別名：砂ぼこり発生機）設計・製作等に力を入れてとても充実し、「生涯の友」もできました。これらは私の宝物です。

大学院修了後、恩師より「材料力学の教員になりませんか？」とのお誘いを戴き、良い思い出のある沼津高専に赴任して早39年が経過しました。授業は材料力学・表面工学・トライボロジーなどを担当しました。研究は「金属のお医者さん」的なことをしており、「金属の疲労」を中心に、電子顕微鏡などで機械部品の破壊や損傷の原因を調査し、その防止法や寿命延長策として形状・材質・

表面処理の検討などを楽しんで行ってきました。

半世紀近く高専で生活し、恩師・親友・企業の方々と交流しながら“研究やモノづくりの面白さ、教育の難しさ、人のご縁の大切さ”などを学びました。その間、平成29年の高専祭における「卒業生による企業展示」（沼津高専同窓会50周年事業の一部）やスキー研修（昭和59年～平成30年）などを立案・実施して学生に喜んでもらい、私にとっても楽しい思い出となりました。また、息子が機械工学科に入学したことにより、保護者の気持ち・立場も理解することができ、とても良い体験をしました。

これまで学会や旅行で、47都道府県・14ヶ国を訪問し、多くの方と巡り会い数々のことを知ることができました。本当に感謝の気持ちで一杯です。

私の高専在学中は、大学へ編入学する人も僅かで、卒業後の活躍も未知（一期生がまだ若かったため）でした。しかし、現在は編入学者が半数程度、就職状況もとても良好で、卒業生は社長・役員・大学教授・弁理士・議員・会計士・画家・ソムリエ等々と活躍は目覚ましい限りです。そして、今後もさらなる活躍が期待されています。在校生の皆さんは自信をもって勉強・クラブ活動等に励み、頭・体・心をバランス良く鍛えてほしいものです。

最後に、長年に渡り支えて下さった教職員の皆様、学生たち、学会・企業の方々に厚く御礼申し上げます。

「沼津高専最高！そして、有難う！！」

沼津高専が益々発展することを祈念します。



Who I am !

制御情報工学科

長谷 賢治

大学時代、日本の自動制御の草分け的存在、prof. TAKAHASHI Yasundoから制御理論を直伝。その理論の提供する概念レンズ。それで事象を観る面白さに夢中になった。『この制御理論の魅力を学生に伝えたい！』、..、そして、ここ沼津高専に奉職。昭和も終わろうとしている頃だった。それから30余年。この3月で定年退職。このミッションは果たされたのか？心もと無い限りだ。

ここを去れば、私が存在したという事実すら抹消されてしまう。皆の記憶からも。せめて己が志向した『講義のカタチ』をここに書きとめておきたい。己の存在の証として。

1. 教員＝役者！

手ぶらで舞台（教室）入り。チョーク一本、そして話

術で勝負。台本を手にもつな！持ったらメッセージは伝わらない。これは、新人当初、御殿場研修で数学科、待田教官が自分に刷り込み（imprinting）してくれたこと。

2. 講義内容＝エベレストを目指せ！

独学しか真の実力はつかない。よって、教員はいわば山岳ガイド役。眺望のいい風景（理論）を見せて彼らを唸らせよ、感動させよ、何が欠けているか気づかせよ。これは、登山技術が未熟だった頃、山岳プロと穂高ジャンダルムから西穂岳を縦走した時、悟らされた教育手法。

3. 人間力を鍛え抜け！そして彼らのロール・モデルであれ！

学生（学齢年齢15から20）は観ている。あらゆるチャンネルで。講義内容以外のそれも。よって、教員以前に濃厚な経験、野性味を持つ人間たるべし。座禅、バイク、登山、沢登、独り旅、すべてよし。これは、自分の高専時代がまさにそうだったから。多くの講義、それを講義する教官群、自分はその中から人生のローモデルを見出そうとしていた。

自分がどれだけ、このような『講義のカタチ』に近づけたか分からない、。ただ、たった一人の学生だけでも真に目覚めさせることができたならば、自分は嬉しい。

This is who I am. Thank you!

追記：

最後に、30余年もの間、こんな自分を忍耐強く見守ってくださった学生の保護者のみなさま、同僚のみなさま、そして何より自分の展開する『名（迷？）講義』を辛抱

強く聴講してくれた学生OB/OG、現役学生の諸君に感謝の意を表したい。ありがとう！



自己実現と有言実行

制御情報工学科
長 縄 一 智

今回の執筆にあたっては、「本冊子の主たる読者である保護者および学生の参考になるように考慮する」という「条件」が与えられたが、これから社会に出ていく学生や、まだまだ定年までには年数のある保護者各位に参考となる「定年退職」に関するふさわしい内容が思い付かなかったため、今からちょうど8年前に、民間企業から高専の教員に転職した自身の経験を通して、「仕事とは何か」を考えてみることにする。

企業に入社したころ、社内研修で、「仕事とは『自己実現の場』である。」と教わった。「自己実現」とは、平たく言えば「会社で自分が本当にやりたいことを行うこと」であるが、実際、その企業において「自分が本当にやりたいこと」を見出すことは、とても難しいことなのであ

る。私の場合、商品開発を振り出しに、商品企画、事業企画、経営企画などを経験してきた中で、「やりたいこと」として、漠然と、①グローバルな視点を持った技術者になる ②自身の経験を後輩や一般の技術者に伝えると置き、「有言実行」を旨とした。①では、職場で「TOEIC勉強会」を開いたり、企業内で募集されている英語研修に積極的に受講したりする中で自身の英語力を向上させ、また5年間の欧州駐在という経験を積んだ。一方②では、自ら経験した設計技術およびそれにかかわる様々な業務についてまとめ、書籍化した。これらの実践の後、縁あって沼津高専にて教員として採用されたが、学生という「将来の技術者」に教えてきた技術英語、経営工学、設計工学などの科目は、いずれも企業での「自己実現」の中で培ったものを活用している。

仕事において、自分の望む分野の業務に就けることは非常にまれなことである。しかし、自分が本当にやりたいことをしっかりと見定め、それに向かって有言実行で努力を重ねていけば、やがて物事は自分の望む方向に自然と進んでいくものであると確信している。



35年間ありがとうございました

教養科数学
遠 藤 良 樹

1986年4月に本校に着任して以来今年度で35年目、このあいだ多くの教職員の方々のご指導、ご協力を賜り大変感謝しております。

わたしは1972年4月に本校電気工学科（当時）に入学し卒業して2年後岡山大学理学部数学科に一般入試により入学、その後九州大学大学院を経て幸運にも1986年に本校一般科目助手（現在の教養科助教）に採用されました。社会人としての自覚が足りないわたしを叱咤激励して下さった当時の先生方、まだ在籍しておられた恩師の方々、そして寮務主事時代に支えて下さった寮監、教員、事務職員、寮生会の学生たちに改めてお礼申し上げます。

数学教育の面では線形代数を題材とした少人数のゼミを着任して数年後に実施したことがまず思い出されます。

そのメンバーの一人が現在本校教養科の数学教員になってくれていることは大変うれしいことです。また、担任した学生の中に本校の教職員が専門学科と技術室に一人ずついることも喜ばしいことです。また、広中平祐氏の「数理の翼」セミナーに本校から多くの学生を参加させることができたこと。もちろん数学の先生方のご協力があったのですが、全国高専生のなかで唯一本校の学生だけが参加できたことが誇りです。あとはここ数年の大学編入試験対策のための補講です。楽しい時間でした。

もうひとつはやはり寮のことです。主事補18年、副主事1年、主事5年勤めました。主事の5年間は大変なことも多々ありましたが、寮生会本部役員とのつながりはわたしの宝でもあります。もちろん先に述べましたように教職員のご協力なくしては務められなかったことも事実です。

述べ15年の担任業務とか他にも書きたいことはあるのですが紙面の関係でわたしの退職のご挨拶はこのあたりで終わりにしたいと思います。なお、来年度は再雇用職員として引き続きお世話になりますのでよろしく願いたします。

卒業生・修了生から

高専生活を振り返って/編入試験について

機械工学科5年

今井翔太

卒業を目前にして振り返ると高専での5年間の過ぎ去りいく早さに驚かされます。合格発表の日まで私の頭から沼津高専は全寮制であることが抜け落ちていました。そのため、入寮初日は寮生活への心の準備が出来ておらず、早く寮を出たいと思っていました。2年間寮生として過ごす中で、厳しい指導や初めての共同生活などの様々な経験をする事ができ、自身の成長に繋がったように思います。もう機会もないと思うので、編入学試験について私が低学年のころに教えておいて欲しかったと感じたことについて書きます。一つ目は席次です。一部の大学は1年から4年までの平均席次を要求します。学校推薦の基準は3,4年次の平均席次がクラス上位1/2以内で

すが、3年から頑張ろうと考えた時点で1,2年の席次が引掛かり、受けることすらできない大学が出てきます。高専だよりが発行される2月に知っても遅い気がするのですが、知っておいたほうが良いことだと思い書きました。2つ目は評定です。成績優秀な学生がある大学の推薦を受験した際になぜか不合格になるということがありました。唯一原因と考えられたのが3年次の数学科目のB評定でした。これは極端な例だと思いますが、足を掬われぬように苦手科目や中間で失敗してしまった科目等でもA評定を目指すのは重要だと思います。最後はTOEICについてです。回数受けるだけで点数は上がります。低学年のころから受けましょう。対策問題集や単語帳など使わなくても、ビジネス英単語を検索して500語ぐらい覚えると簡単に600点まで上げられます。また、難関大学で700から600点、その他の国立大学では500点以上というのが受験する際の目安となります。本稿が誰かの役に立つことがあれば幸いです。

晴天を祈って

物質工学科5年

阿形明音

今にも降り出しそうな曇天の4月上旬の沼津高専は、中学校の制服では肌寒く、購入した教科書はひどく重たいように感じたことを今でも覚えています。

あの日から約5年経つ今に至るまで、私はこの沼津高専で様々なことを経験しました。寮生活では初めて親元を離れ不安もありましたが、多くの人に助けられながら生活し、2年次に階長、3年次には棟長を務めました。部活動では中学から続けてきたバドミントン部に5年間所属し、3年次には部長を務めました。至らない点が多かったものの、同級生や先輩、後輩に支えられながら活動してきました。学生が協力してつくる高専祭では、祭りを制作する学生の一人として5年間関わり、4年次には実行委員も務めました。今回執筆にあたり改めて振り

返ると、この他にも、高専だったから得られたことがありました。

ここまで読んでくれた方の中には「自己PRみたいだな」と感じた方もいるかと思います。しかし今挙げた経験というのは、己だけでは決して得られないものでした。良くも悪くも高専という学校だからこそ築けた人との繋がりから得られたものであり、高専だからこそ先輩や後輩、友人の大切さ、両親や、指導して下さる先生方の存在の大きさが分かりました。

沢山の人と関わったからこそ得られた辛いこと、苦しいこと、嬉しいこと、楽しいことそれらすべてが、私は高専で得られる宝の一つだと思うのです。

長々と書きましたが本稿の結論は最後の一文がすべてです。宝をどうするかは自分次第ですが、私は大切に抱え、時には人生の雨天時の傘にでもしながら生きていこうと思います。そう思うと同時に、この学校で生活を続ける人、それを支える人、そして旅立つ人たちのこれからが、晴れ渡る青空のようであることを祈っています。最後まで読んでいただきありがとうございました。



高専生活を振り返って

環境エネルギー工学コース2年
稲葉 蒼一郎

私が沼津高専に入学したのは今から7年も前のことです。入学と同時に寮生活が始まり、最初の1ヶ月は新しい経験の連続でした。あまりに時間の密度が高かったためか、とても1日が長く感じました。あの感覚は今でも鮮明に覚えています。当時は高専卒業まで5年もかかるのかと思うと途方もないことのように感じましたが、今思えばこの5年間はあっという間でした。あっという間とは言っても、毎週の実験とレポート提出に追われ、テストで赤点を取らないように必死に勉強したことは強く印象に残っています。しかし、それでも何か勉強し足りないような感じがしたため、専攻科に入学しました。専攻科では専門分野にとらわれない幅広い学習を行う

ことができます。そして何よりも長期インターンシップで実践的な経験を積むことができる点や同じ研究室で3年間研究を行える点が大きな魅力です。専攻科1年次の長期インターンシップでは国立遺伝学研究所で実習を行い、コンピュータ上で遺伝子情報を扱う技術について学びました。その際にはプログラミングを用いる必要があったため、専門分野にとらわれないことの重要性を学びました。そして進学し、専攻科2年次には新型コロナウイルスが流行しました。これにより、一時的に学校での活動がオンラインになったため、半年間は満足に研究活動を行えず、学会発表等もあまりすることができませんでした。これはすごく残念でしたが、これからの社会で求められるオンラインスキルを取得することができたことは良かったと感じています。来年、再来年にコロナ禍が終息しているかどうかは分かりませんが、「人柄の良い優秀な技術者」を目指して、大学院でも頑張っていきます。

最後に、お世話になった皆様にこの場を借りて深く感謝申し上げます。

学生の研究活動 (2020.4.1~2021.3.31)

論文発表

(学生が第二著者等であってもすべて記載。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

学科・学年	著者名 (共著含) (筆頭著者に○)	論文誌名、巻号(年)頁	論文題名	指導教員
AC2	望月 秀斗 (○Furukawa Kazumi, Koizumi Mai, Hayashi Wakana, Mochizuki Hideto, Yamaki Kaito)	Plant biotechnology vol. 37, Issue 2 (2020)	Pretreatment and posttreatment in the biolistic transformation of tea plant (<i>Camellia sinensis</i>) somatic embryos	古川 一実
MC2	○Kosuke Suzuki Satoshi Yamazaki	IEEE Communications Letters (accepted for publication)	Throughput Maximization Based on Optimized Frame-Aggregation Levels for IEEE802.11 WLANs	山崎 悟史

講演発表

(登壇者が学生の場合又はそれに相当する場合のみ記す。講演論文集が4頁程度であっても講演発表に含める。賞を受賞している場合は、その名称を発表題名の後に赤字で記載。)

ロボティクス・メカトロニクス講演会2020 in Kanazawa
Web開催/2020.5.27-30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC2	石川 仁	協調動作による超音波診断支援のためのプローブ把持機構の検討	青木 悠祐
MC2	大村 陸	超音波診断における筋骨格系障害のリスク低減を目的とした負荷計測システムのための要因分析	青木 悠祐
MC2	田中 健太	ホログラムを用いたHolographic Surface Projector : HSPの開発	青木 悠祐
MC2	三浦 凜太郎	超音波診断支援ロボットによる協調動作のためのプローブプランニング	青木 悠祐
MC1	佐野 元康	超音波断層像処理とプローブ位置・姿勢情報を組み合わせた臓器3次元形状推定	青木 悠祐
MC1	杉山 矢紘	超音波診断支援のためのOST-HMDを用いた負荷可視化・視線誘導システムの構築	青木 悠祐
EC1	古川 陽太	作業員負荷軽減ロボットによる現場実験を通じたプロセス評価	青木 悠祐

ロボティクス・メカトロニクス講演会2020 (ROBOMECH2020 in KANAZAWA)
オンライン/2020.5.29

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC1	伊藤 信 秀	患者の動向監視支援システムの開発 —第三者侵入の認識— (藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫
EC1	知久 奏 斗	オンマシン自動磨き加工用5軸CAMシステムの開発 —凹凸曲面での磨き加工— (藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫

電子情報通信学会 無線通信システム研究会
Online/2020.6.24-26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC2	鈴木 康 介	最適なフレーム集約数に基づく802.11WLANスループットの最大化	山崎 悟 史

電子情報通信学会 無線通信システム研究会
Online/2020.7.8-10

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC2	鈴木 康 介	LoRaWANにおけるACK信号を用いた自律分散的な周波数リソース割当て手法の検討 (鈴木康介, 相原直紀, 安達宏一, 山崎悟史)	山崎 悟 史

2020年電子情報通信学会ソサエティ大会
Online/2020.9.15-18

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC2	鈴木 康 介	各種パラメータが802.11acフレーム集約数と理論スループットに与える影響	山崎 悟 史

第44回静電気学会全国大会
オンライン開催/2020.9.24-25

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC2	永尾 優 磨	超高感度紫外線カメラによる剥離放電現象の観察	大津 孝 佳

The 23rd International Symposium on Wireless Personal Multimedia Communications (WPMC 2020)
Online/2020.10.19-26

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC2	鈴木 康 介	Autonomous Decentralized Frequency Resource Allocation using ACK Signal in LoRaWAN [Best Student Paper Award] (K.Suzuki, N.Aihara, K.Adachi, S.Yamazaki)	山崎 悟 史

2020 IEEE Conference on Electrical Insulation and Dielectric Phenomena
Web開催/2020.10.20-23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
EC2	MASUDA Shumpei	Electroluminescence of Epoxy Resin Nanocomposite under AC High Field II	TOHYAMA Kazuyuki

The 5th International Conference on "Science of Technology Innovation" 2020
長岡技術科学大学/2020.10.30

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
C5 C5	プリンヒル 伊藤 甚 太	Near-infrared absorption, spectroelectrochemistry, and photoresponse properties of platinum(II) complexes with o-phenylenediamine derivatives, Best Research Presentation Award	藁 科 知 之

第27回電気学会東京支部静岡東部・山梨支所合同研究会
Web開催/2020.11.2

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC2	遠山 暉 大	最大トルク制御座標系を用いたIPMモータの周期的速度変動抑制制御	大沼 巧

第25回静岡健康・長寿学術フォーラム
静岡県男女共同参画センター「あざれあ」/2020.11.13-14

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
AC2	塚 浜 歩	Salacia stem and leaf extract could suppress the odor of aging	芳野 恭 士

日本電子部品信頼性センター信頼性シンポジウム
大田区産業プラザ/2020.11.17-18

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
EC2	永尾 優磨	超高感度紫外線カメラを用いた静電気放電現象の観察 奨励賞	大津 孝佳
EC2	永尾 優磨	超高感度紫外線カメラによる剥離放電現象の観察	大津 孝佳
AC1	中島 翔太	水素センサの静電特性評価	望月 孔二

The 23rd International Conference on Electrical Machines and Systems
Web開催/2020.11.24-27

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC1	NOMURA Yuiko	A Measurement Method for Phase Angle of Maximum Torque Control Reference Frame by Torque Ripple of IPMSMs (KUMAGAI Takuhiro)	OHNUMA Takumi

第26回高専シンポジウム オンライン
オンライン開催 (Microsoft Teams) /2021.1.23

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
M5	栗田 智啓	倒立型搬送用移動ロボットにおける制御系の構築	三谷 祐一朗
M5	後藤 健	非接触搬送システムにおける垂直搬送 制御系の構築	三谷 祐一朗
D5	芦澤 辰憲	ロボカップJr.レスキュー競技におけるビギナーズ教材の開発	川上 誠
D5	佐藤 辰紀	ロボカップJr.サッカービギナーズリーグにおける無線通信モジュールを搭載したロボットの開発および教材開発	川上 誠
D5	武田 恋	中心静脈栄養剤の組成オーダリングシステムの開発	川上 誠
D5	土屋 直哉	ロボカップJr.サッカーオープンリーグにおける画像処理を用いた機体の開発	川上 誠
D5	露木 大雅	プログラミング初学者向けAIプログラミングアプリケーションの開発	川上 誠
S4	土戸 翔太	患者の動向監視支援システムの開発 —カメラ設置位置の変更への対応— (伊藤信秀, 藤尾三紀夫)	藤尾三紀夫

令和3年電気学会全国大会
Web開催/2021.3.9-11

学科・学年	学生氏名	講演発表題名 (共同研究者名)	指導教員
MC1	野村 柚衣子	トルクマップに基づいた高出力同期モータの制御	大沼 巧

2021年電子情報通信学会総合大会
Online/2021.3.9-12

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
MC2	鈴木 康介	WLAN理論スループットを最大化するフレーム集約法における多変数化の効果	山崎 悟史

令和2年電気学会全国大会 (開催自体は中止となった。)
東京電機大学/2021.3.11-13

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
EC2	増田 俊平	シラン架橋ポリエチレンの熱劣化が光吸収・発光特性に及ぼす影響 令和2年電気学会全国大会優秀論文発表賞受賞	遠山 和之

日本化学会 第101春季年会
オンライン/2021.3.19-21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5	栗野 興紀	混合金属酸化物を前駆体とする鉄系触媒を用いたアンモニア合成	稲津 晃司

日本育種学会 第139回 講演会
オンライン/2021.3.21

学科・学年	学生氏名	講演発表題名	指導教員
C5 AC2	谷口 洲五 稲葉 蒼一郎	チャ(茶樹: Camellia sinensis) の不定胚培養におけるアルミニウムの影響および 発現遺伝子	古川 一実

令和2年度卒業生・修了生進路先一覧

機械工学科

38名

令和3年3月1日現在

就職先企業

21名

株式会社 小松製作所	1
株式会社日立ハイテクサイエンス	1
NTN株式会社	1
キャノン株式会社	1
株式会社オカムラ	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
キーパー株式会社	1
テルモ株式会社	1
スズキ株式会社	1
オーチスエレベーター株式会社	1
旭化成株式会社	1
ヤマハモーターエンジニアリング株式会社	1
株式会社電業社機械製作所	1
東芝キャリア株式会社	1
株式会社エフ・シー・シー	1
バックマン・コルター株式会社	1
株式会社明電舎	1
オークマ株式会社	1

富士森永乳業株式会社	1
一般社団法人日本建設機械施工協会施工技術総合研究所	1

進学（編入学）先大学等

15名

筑波大学理工学群	1
千葉大学工学部	1
東京大学工学部	1
電気通信大学情報理工学域	1
横浜国立大学理工学部	1
山梨大学工学部	1
名古屋大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	3
大阪府立大学工学部	1
富山県立大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	3

その他

2名

東京デザイン専門学校	1
その他	1

電気電子工学科

39名

就職先企業

21名

東京電設サービス株式会社	1
東レエンジニアリング東日本株式会社	1
日本オーチス・エレベーター株式会社	1
フジテック株式会社	1
株式会社ヤクルト本社	1
出光興産株式会社	1
エヌ・イーケムキャット株式会社	1
日星電気株式会社	1
ファナック株式会社	1
バックマン・コルター株式会社	1
株式会社東京ウエルズ	1
浜松ホトニクス株式会社	2
株式会社明電エンジニアリング	1
中部電力ミライズ株式会社	1
中部電力パワーグリッド株式会社	1
東京電力ホールディングス株式会社	1
株式会社NHKテクノロジーズ	1
富士宮通運株式会社	1
森トラスト・ビルマネジメント株式会社	1
株式会社ヤマハコーポレートサービス	1

進学（編入学）先大学等

16名

東北大学工学部	1
筑波大学理工学群	2
埼玉大学経済学部	1
東京農工大学工学部	1
東京工業大学理学院	1
電気通信大学情報理工学域	1
長岡技術科学大学工学部	1
信州大学工学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
大阪大学工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	4

その他

2名

沼津工業高等専門学校研究生（予定）	1
その他	1

電子制御工学科

41名

就職先企業

21名

東芝インフラシステムズ株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社ニコン	1
富士フイルムメディカル株式会社	1
東海旅客鉄道株式会社	1
スズキ株式会社	1
オムロンフィールドエンジニアリング株式会社	1
高砂香料工業株式会社	1
シーシーエス株式会社	1
株式会社テクノサイト	2
ヤマハモータエンジニアリング株式会社	1
富士通クライアントコンピューティング株式会社	1
バルス株式会社	1
三菱電機エンジニアリング株式会社	1
ファナック株式会社	1
キャノンメディカルシステムズ株式会社	2
チームラボ株式会社	1
ローム浜松株式会社	1
ポリプラスチックス株式会社	1

進学（編入学）先大学等

15名

東京農工大学工学部	1
新潟大学工学部	1
長岡技術科学大学工学部	1
名古屋大学経済学部	1
豊橋技術科学大学工学部	2
九州大学芸術工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	8

その他

5名

専門学校入学希望	1
その他	4

制御情報工学科

40名

就職先企業

18名

芝浦機械株式会社	1
株式会社ガルフネット	1
株式会社ニコン	1
ソフトバンク株式会社	1
アズビル株式会社	1
株式会社テクノサイト	1
浜松ホトニクス株式会社	1
株式会社リコー	1
日本特殊陶業株式会社	1
チームラボ株式会社	1
森永乳業株式会社	1
株式会社Minoriソリューションズ	1
KDDIエンジニアリング株式会社	1
株式会社アーティスティックス	1
明電システムソリューション株式会社	1
株式会社アルファシステムズ	1
株式会社テクモ	1
株式会社オリジナルソフト	1

進学（編入学）先大学等

16名

北海道大学工学部	1
千葉大学工学部	1
電気通信大学情報理工学域	3
横浜国立大学理工学部	1
山梨大学工学部	1
山梨大学教育学部	1
信州大学工学部	1
奈良女子大学生活環境学部	1
和歌山大学システム工学部	2
沼津工業高等専門学校専攻科	4

その他

6名

日本工学院八王子専門学校	1
その他	5

物質工学科

38名

就職先企業

15名

雪印メグミルク株式会社	1
国立研究開発法人日本原子力研究開発機構	1
アステラスファーマテック株式会社	1
エヌ・イー ケムキャット株式会社	1
株式会社シンクロフード	1
昭和電工株式会社	1
花王株式会社	1
星光PMC株式会社	1
シミックCMO株式会社	1
サントリースピリッツ株式会社	1
浜松ホトニクス株式会社	1
スズキ株式会社	1
出光興産株式会社	1
株式会社クリエイティブ・コーティング	1
協和キリン株式会社	1

進学（編入学）先大学等

20名

筑波大学生命環境学群	1
東京農工大学工学部	1
東京工業大学生命理工学院	1
東京工業大学物質理工学院	2
長岡技術科学大学工学部	2
豊橋技術科学大学工学部	2
和歌山大学システム工学部	1
広島大学生物生産学部	1
名城大学理工学部	1
沼津工業高等専門学校専攻科	8

その他

3名

その他	3
-----	---

環境エネルギー工学コース

10名

就職先企業

7名

横浜ゴム株式会社	1
東芝キャリア株式会社	2
アルテリア・ネットワークス株式会社	1
矢崎総業株式会社	1
株式会社日立ハイテクサイエンス	1
NTTコムソリューションズ株式会社	1

進学（編入学）先大学等

3名

東京工業大学大学院生命理工学院	2
東京大学大学院工学系研究科	1

新機能材料工学コース

5名

就職先企業

2名

テルモ株式会社	1
第一三共バイオテック株式会社	1

進学（編入学）先大学等

3名

東京工業大学大学院物質理工学院	1
明治大学大学院先端理数科学研究科	1
東京大学大学院農学生命科学研究科	1

医療福祉機器開発工学コース

10名

就職先企業

6名

コニカミノルタジャパン株式会社	1
特種東海製紙株式会社	1
セイコーエプソン株式会社	1
株式会社ドゥシステム	1
株式会社マクシスエンジニアリング	1
株式会社メンバーズ	1

進学（編入学）先大学等

4名

電気通信大学大学院情報理工学研究科	1
慶應義塾大学大学院理工学研究科	1
東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科	1
東京大学大学院情報理工学系研究科	1

教育後援会から

ある研究者の言葉を、 学生の皆さんへ

教育後援会会長 土屋善隆

昨年11月に、小柴昌俊氏が亡くなりました。2002年にノーベル物理学賞を受賞し、その賞金などを基にして平成基礎科学財団を設立し、科学の啓発活動に取り組んだことでも有名な研究者です。10年程前に講演を聞く機会に恵まれました。その講演の中で、「『やれば、できる。』というが、これはうそ。」と話されました。思わず耳を疑いながら聞くと、「『本気になってやれば、できる。』わたしは、一高から東大に進む際、物理には行けないという教師の話を聞いて、猛勉強をしました。そして、東大物理学科へ入学しました。人間は、何でも本気になれる訳ではありません。いろいろな経験をして、やりたいものが見つかる本気になれるのです。そして、たくさんの困難を乗り越え、やり遂げることができるのです。」と続けました。その時に紹介された「心に夢のタマゴを持とう」(講談社文庫)には、これからの時代を担う子供たち

に向けて、「これをやりたい、やり遂げたい、そういう目標になるタマゴを三つか四つ、いつも大事に持っていてください。そうすると、いろいろな情報に出会ったときに、この情報は自分のタマゴを鳥に孵すことができるかもしれない。そんなふうに必要な情報を選び出すことができるのです。」と語っています。20年程前に書かれた本の中で、現代の情報社会の到来を捉えています。そして、こう書いています。「ある意味で情報が多過ぎる時代でこれから活躍するみなさんが、あなた方の一人一人が、この人がこの地球に生まれてこういうことをやったんだよと、地球に爪あとを残すような仕事を残せるように、どうぞがんばってください。」と結んでいます。

縁あって、沼津高専で学んでいる学生の皆さん、やがて「2020年度は大変だったな。でも、……。」といえる時はやって来ます。今はその時のために、夢のタマゴを温めていてください。

保護者の皆様、今年度は教育後援会として十分な活動はできませんでした。コロナ禍がどうなるか予測はできませんが、子供たちの未来のため、これからもご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

同窓会から

同窓会へようこそ

同窓会会長 木戸 実 (M6)

卒業・修了おめでとうございます。今年は新型コロナのなか大変な1年となりました。その流行は未だに先が見えません。その中で沼津高専での学業を終え新たに一步を踏み出す皆さん、このコロナ禍の1年もこれからの前進に欠かせない貴重な経験として、プラスに転じるきっかけにして欲しいと思います。

社会には常に問題や課題が溢れています。このコロナも一気に全世界を覆いつくした災難です。総力を挙げて世界的な対応が必要です。コロナも一事例として、世界的に取り組むべき課題、問題はどの時代でも山ほど溢れています。技術や科学が著しい勢いで進歩するこの時代に、一向に改善が進まない、あるいは逆に悪化する問題、課題を取り上げて、地球規模でパートナーシップを取りながら解決に向けていく取り組みが始まっています。貧困・飢餓・健康・福祉・平等・公平公正・安全・作る使う責任・地球資源を守る・働きがい等々、地球の将来も脅かす課題への取り組みがSDGsです。

これは大変大きなテーマですが、その解決は日々の私

たちの生活であり、未来であり、一人一人に大きく関係しているものです。その手段もビジネス、経済活動と直結し、これからの仕事の中で大いに関係してくるものと思います。途方もない大きなテーマを個々に追及しブレークダウンし、また様々に連携して試行錯誤を重ねていくところは、SDGsに限らず仕事の基本です。若い大きな可能性を持つ皆さんの活躍を地域が社会が世界が待ち望んでいます。出来ることから始めて、未知の目標に向かい、素晴らしい未来を切り拓いてください。

時にはうまく進まず立ち止まることや一人では立ち行かなくなることもあるでしょう。そんな時は職場の同僚や関係する人たち、仕事以外の繋がり、家族や友人など、いろいろな支え合いが活動の原動力となります。その中に沼津高専同窓会をぜひ加えてください。この同窓生のネットワークを大いに利用していただき、折りあるごとに情報を交換したり、新しい未来を一緒に考えたりしていきましょう。お待ちしております。

沼津高専の共通する思い「人柄のよい優秀な技術者となって世の期待に応えよ」この言葉をこれから新しい時代へ羽ばたいていく皆さんに、改めてお贈りしたいと思います。

お 知 ら せ

海外留学プログラムについて

若い間に海外の文化や生活を経験することは、皆さんにとって貴重な経験になります。以下に海外留学プログラムを列挙します。詳細は学生課まで問い合わせて下さい。(状況により、プログラムを実施しない場合があります。)

【本校が行っているもの】

- 専攻科海外長期インターンシップ
- アメリカ異文化体験&語学研修

【高専機構が行っているもの】

- 国際シンポジウム (ISTS) (タイ)
- 高専生のための英語キャンプ (シンガポール)
- テクニカルチャレンジプログラム (香港)
- オーストラリア語学研修
- プログラムチャレンジinシンガポール
- オタゴ・ポリテクニク就業体験プログラム (ニュージーランド)
- チェンマイ大学語学研修・文化体験 (タイ)
- タマサート大学留学プログラム (タイ)
- シンガポールポリテク交流イベント
- KPU派遣プログラム (カナダ)

【文部科学省トビタテ留学JAPAN】

- 大学生等コース
- 高校生コース
- 未来テクノロジー人材枠
- ふじのくにグローバル人材育成事業

【自治体等が実施しているもの】

- 高校生姉妹都市 (カラマズー市) ホームステイ体験「沼津市」
- 友好都市 (岳陽市) 留学生派遣 (隔年実施)「沼津市」
- 短期留学交流事業 (中国浙江省内大学)「静岡県」
- 日中青少年代表交流事業「静岡県教育委員会」
- 静岡県国際交流プログラム「静岡県青年海外研修協会」
- 青年国際交流事業 (世界青年の船他)「内閣府」

令和3年度授業料免除及び徴収猶予等について

世帯収入の基準を満たし、しっかりとした学ぶ意欲がある本科4・5年生及び専攻科生については、申請により、文部科学省及び日本学生支援機構が行う高等教育の修学支援新制度が受けられます。対象となれば、返還不要の日本学生支援機構給付奨学金及び授業料・入学金の免除又は減額の支援を受けることができます。

また、経済的理由により授業料の納付が困難で、学力優秀と認められれば、授業料徴収猶予の申請が行えます。詳細は別途ご案内いたします。

なお、本科1～3年生は、原則として「就学支援金」制度により助成が行われます。

ご不明な点がございましたら、学生課学生係 (055-926-5734) にお問い合わせください。



各種奨学金について

令和2年度に募集が行われた主な奨学金

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
1	【貸与型】 日本学生支援機構奨学金	全学年	経済的理由により修学に困難がある優れた学生	月額1万円～5万1千円（入学年度、通学形態（自宅通学・自宅外通学）によって定められた2種類の額のいずれかを選択する）	要	4月
		（無利息） 第一種		月額2万円～12万円（11種類の貸与月額から自由に選択できる）		
2	【給付型】 日本学生支援機構奨学金	本科 4・5年生 専攻科生	学ぶ意欲があり、以下のいずれかの区分に該当する者 【第Ⅰ区分】申請者と生計維持者の市町村民税所得割が非課税であること 【第Ⅱ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が100円以上25,600円未満であること 【第Ⅲ区分】申請者と生計維持者の支給額算定基準の合計が25,600円以上51,300円未満であること	月額5千9百円～3万4千2百円（国立高専の場合） ※家計区分・在学中又は進学先大学等の設置者（国公立、私立）・通学形態（自宅通学、自宅外通学）により決まる	不要	4月
3	天野工業技術研究所奨学金	本科5年生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	4月
4	公益財団法人ウシオ財団奨学金	本科5年生	専攻科への進学の意味が固く、奨学生候補者としてふさわしい者	月額6万円	不要	4月
5	静岡県高等学校等奨学金	本科 1～5年生	保護者が静岡県内に居住しており、以下のいずれかに該当する世帯の者 ①生活保護を受給している ②市町民税が非課税になっている ③市町民税が減額になっている ④世帯全員の収入合計が生活保護基準額の1.5倍以下である	自宅通学： 月額1万8千円 自宅外通学： 月額2万3千円	要	4月
6	関育英会奨学金	本科2年生	人物・学業とも優秀かつ健康でありながら、学資の支弁が困難と認められる者	月額2万円	要	4～5月
7	あしなが育英会奨学金	全学年	保護者等が、病気や災害もしくは自死等で死亡したり、それらが原因で著しい後遺障害を負い、教育費に困っている家庭の学生	月額4万5千円（貸与2万5千円、給付2万円）	一部要	4～12月
8	公益財団法人エンケイ財団奨学金	本科 4・5年生 専攻科生	※学内選考の上、推薦基準該当者のみに案内	年額24万円	不要	5月
9	川村育英会奨学金	本科3年生	以下の条件を全て満たす者 ①生計を一とする家族の年間収入（祖父母の年金収入は除く）が500万円以下 ②成績証明書（前年度学年末時点）記載の学業成績に占める、A評価の割合が50%以上	月額2万円	不要	5～6月
10	公益財団法人タミヤ奨学会奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①国内の4年制大学に進学する者 ②学業・人物ともに優秀かつ健康な者 ③経済的理由から就学が困難な者 ④応募時の現住所が静岡県内である者 ⑤兄弟姉妹がタミヤ奨学金を受給していない者	月額2万5千円	不要	9～12月

No.	奨学金名	対象学年	応募資格	金額	返還	募集時期
11	公益財団法人スズキ教育文化財団 大学奨学金	本科5年生	以下の条件を全て満たす者 ①4年制以上の大学に進学予定の者 ②向上心が強く、学業、人物とも優秀 かつ健康であって、経済的理由により 修学に専念出来ない者 ③大学入学後、給付、貸与を問わず他 のいかなる奨学金も受給しない者	月額5万円	不要	12～1月
12	沼津中央ライオンズ基金奨学金	本科 1・2年生	以下の条件を全て満たす者 ①沼津市に保護者と共に居住している 者（ただし、寮生の場合は出身が沼津 市内であれば可） ②品行方正、学業優秀又は一芸に秀で その道で将来を嘱望されている者で、 かつ経済的援助が必要と認められる者	月額1万5千円以内	不要	11～1月
13	熱海市育英事業奨学金	全学年	以下の条件を全て満たす者 ①保護者が熱海市内に居住している者 ②翌4月に本校に在学している者又は 大学（専攻科を含む）に進学する者 ③経済的理由により修学困難な者 ※その他学力・所得要件有り	本科1～5年生：月 額1万9千円以内 専攻科生・大学生： 月額4万4千円以内	要	11～1月

※奨学金募集の有無・募集時期は、年度によって異なる場合がありますので、ご確認願います。

※申請者全員が採用されるとは限りません。

※上記以外にも、地域で奨学金の募集を行っている場合があります。詳しくは、お住まい地域の自治体へお問い合わせください。



意見箱について

本校では、より良い環境の下で、良質な教育を提供することに努めており、それには、保護者及び学生の皆様から寄せられる「声」は非常に重要なものです。そこで、本校の学校運営に関する課題・問題点を早期に把握し、その改善に資することを目的として『沼津工業高等専門学校意見箱』を設置しております。皆様からの学校運営に関する率直なご意見、ご要望、ご指摘等ございましたら、下記メールアドレス宛にお寄せください。

メールアドレス：ikenbako@numazu-ct.ac.jp

※注意事項

- (1) ご意見等に対し、回答を要する場合は、学生所属クラス・保護者氏名または学生氏名を明記してください。匿名メールにつきましては、受付・調査等は行いますが、原則として回答はいたしません。
- (2) ご意見等をお寄せいただいた方の不利益にならないように取扱います。（ただし、虚偽の通報、他人を誹謗中傷する通報、その他不正を目的とする通報の場合を除きます）
- (3) 意見箱は週1回程度チェックします。
- (4) 受信メールの内容が高専機構に関するもので、高専機構の「公益通報の処理等に関する規則」に規定する通報に該当する場合には、当該規程により取扱います。
- (5) 公開が必要と認められる事案については、その結果を公表する場合があります。

令和3年度行事予定表

2021年

4月 入学式・入寮式
始業式・対面式・健康診断
クラブ紹介
1年合宿研修
1年授業参観・クラス懇談会

5月 2～4年クラス懇談会
スポーツ大会・学生総会
寮祭
専攻科推薦入学試験

6月 前期中間試験
防災訓練・高専大会壮行会
東海地区高専体育大会（～7月）
専攻科学力入学試験

7月 一日体験入学

8月 1～4年保護者懇談会
寮生リーダー研修会

9月 前期末試験

10月 高専プログラミングコンテスト
全国高専ロボットコンテスト東海北陸地区大会
体育祭・学生総会
文化講演会
高専祭

11月 授業参観・学科説明会
全国高専ロボットコンテスト全国大会
後期中間試験

12月 2年生特別研修
4年生海外研修

2022年

1月 推薦選抜入試

2月 専攻科2年研究発表会
卒業研究発表
学年末試験
学力選抜入試
終業式
専攻科1年長期インターンシップ最終報告会

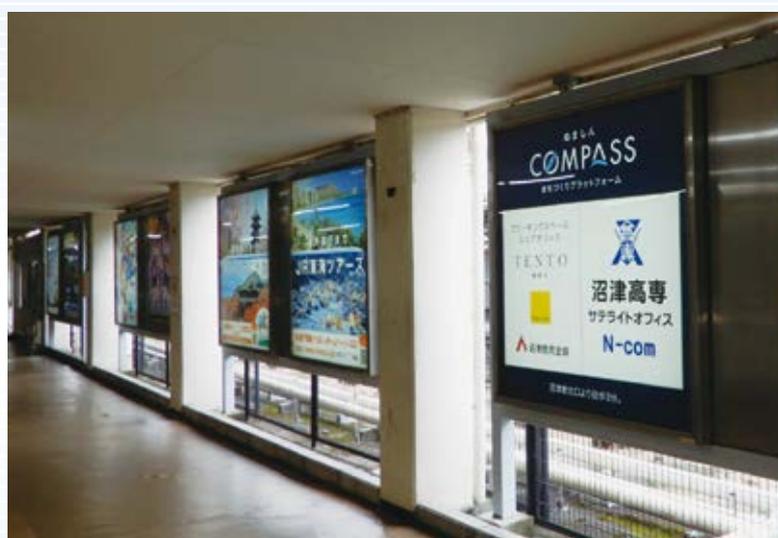
3月 卒業式・修了式

編集後記

「高専だより118号」をお届けいたします。ご寄稿下さった皆様には、この場を借りて心より御礼申し上げます。なお、長らく紙媒体で発行・送付して参りました「高専だより」ですが、別紙でもご案内させていただきましたとおり、出版方式の変更、すなわち次号「高専だより119号」からは郵送による配布を中止し、電子出版（HPへの掲載のみ）へと移行をはじめさせていただきます。ペーパーレス化・経費の節減等の流れを踏まえ、検討を重ねてきた結果でございますが、何卒、ご理解を賜りますとともに、引き続き電子版にて本紙を御覧いただければ幸いです。

「沼津高専だより」に関するお問い合わせ
出版委員会（事務担当：総務係）

Tel : 055 - 926 - 5712 E-Mail : soumu@numazu-ct.ac.jp



沼津高専サテライトオフィス（N-com）看板を沼津駅南口に設置

※N-comは沼津高専、沼津市や沼津駅の頭文字“N”と、common（共有）、community（共同）、communication（交流）の“com”の組み合わせです。